

福島県立医科大学

第9回 甲状腺検査専門委員会診断基準等検討部会

次第

日時：平成26年8月3日（日）13:00～16:00

場所：コンベンションルーム AP東京駅八重洲通り 13階 A室

1 開会

2 挨拶

福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター

副センター長 山下俊一

3 議事

【報告】

- (1) 第8回 甲状腺検査専門委員会 診断基準等検討部会 概要記録
- (2) 第15回検討委員会（H26.5.19開催）にかかる甲状腺検査部門資料
- (3) 病理診断コンセンサス会議の報告
- (4) 県内・県外検査機関一覧表
- (5) 県外出張検査（新潟県（柏崎市・新潟市））実施結果

【協議】

- (1) 第16回検討委員会（H26.8.24開催）にかかる甲状腺検査部門資料（案）
について
- (2) 甲状腺癌症例について
- (3) 甲状腺結節・甲状腺癌の地域差について
- (4) 細胞診施行率について

4 その他

5 閉会

配布資料

- 第9回 甲状腺検査専門委員会 診断基準等検討部会 次第
第9回 甲状腺検査専門委員会 診断基準等検討部会 名簿
第9回 甲状腺検査専門委員会 診断基準等検討部会 座席表

【報告】

- 報告1 第8回 甲状腺検査専門委員会診断基準等検討部会 概要記録
報告2 第15回検討委員会（甲状腺検査部門）資料
報告3 第1回～第4回病理診断コンセンサス会議概要記録
報告4 県内・県外検査機関一覧表
報告5 県外出張検査（新潟県（柏崎市、新潟市））

【協議】

- 議題1 第16回検討委員会（甲状腺検査部門）資料（案）
議題2 甲状腺癌症例について
議題3 甲状腺結節・甲状腺癌の地域差についての解析結果
議題4 細胞診施行率について

【その他】

第9回 甲状腺検査専門委員会診断基準等検討部会 名簿

【委員】

	所属機関	職	氏名	出欠

※50音順にて作成（敬称略）

【協力委員】

	所属機関	職	氏名	出欠

（敬称略）

【福島県立医科大学 関係教職員】

	所属機関	職	氏名	出欠
1	福島県立医科大学	国立大学法人長崎大学理事 福島県立医科大学副学長 放射線医学県民健康管理センター副センター長	山下 俊一	○
2	福島県立医科大学	甲状腺内分泌学講座 主任教授 放射線医学県民健康管理センター 甲状腺部門 部門長	鈴木 眞一	○
3	福島県立医科大学	臨床検査医学講座 主任教授 放射線医学県民健康管理センター 甲状腺部門 副室長	志村 浩己	×
4	福島県立医科大学	放射線健康管理学講座 教授	大津留 晶	○
5	福島県立医科大学	甲状腺内分泌学講座 教授 放射線医学県民健康管理センター 甲状腺部門 副部門長	鈴木 悟	○
6	福島県立医科大学	病理病態診断学講座 教授	橋本 優子	○
7	福島県立医科大学	甲状腺内分泌学講座 准教授 放射線医学県民健康管理センター 甲状腺部門 副室長	福島 俊彦	○
8	福島県立医科大学	放射線健康管理学講座 准教授 放射線医学県民健康管理センター 甲状腺部門 副室長	緑川 早苗	○
9	福島県立医科大学	放射線医学県民健康管理センター 広報部門 部門長 特命教授	松井 史郎	○
10	福島県立医科大学	放射線医学県民健康管理センター 広報推進室 主査	日野 優子	○

【福島県立医科大学 関係事務職員】

	所属機関	職	氏名	出欠
1	福島県立医科大学	放射線医学県民健康管理センター 甲状腺検査室 室長	黒澤 涼一	○
2	福島県立医科大学	放射線医学県民健康管理センター 甲状腺検査室 副室長	高島 光二	○
3	福島県立医科大学	放射線医学県民健康管理センター 甲状腺検査室 主任医療技師	逸見 正彦	○
4	福島県立医科大学	放射線医学県民健康管理センター 甲状腺検査室 医療技師	阿部 紀和	○
5	福島県立医科大学	放射線医学県民健康管理センター 甲状腺検査室 主事	坂本 亮	○

AP東京八重洲通り
13階 A室

スクリーン

プロ
ジェク
ター

福島県立医科大学
山下 俊一

福島県立医科大学
鈴木 真一

福島県立医科大学
鈴木 悟

福島県立医科大学
大津留 晶

福島県立医科大学
橋本 優子

福島県立医科大学
松井 史郎

事務局席

福島県立医科大学
福島 俊彦
福島県立医科大学
緑川 早苗
福島県立医科大学
日野 優子

出入口

第 8 回甲状腺検査専門委員会診断基準等検討部会 概要記録

日時：平成 26 年 4 月 29 日（火）13：00～15：30

場所：コンベンションルーム AP東京駅八重洲通り 13階 A室

【出席者】

[委員]

[協力委員]

[福島県立医科大学関係職員] 山下副センター長、鈴木（眞）部門長、鈴木（悟）室長、志村副室長、福島副室長、緑川副室長、大津留教授、松井（史）部門長、橋本教授、田崎准教授

[事務局] 黒澤室長、高島副室長、逸見主任医療技師、佐藤医療技師、箱岩医療技師、加藤主事、坂本主事

[記録作成] 坂本主事

1 報告

- (1) 第 7 回 甲状腺検査専門委員会 診断基準等検討部会 概要記録
- (2) 第 14 回検討委員会（H26.2.7 開催）にかかる甲状腺検査部門資料
- (3) 病理診断コンセンサス会議（仮称）の報告
- (4) 甲状腺検査（一次検査及び二次検査）の実施マニュアル
- (5) 県外検査機関一覧表
- (6) 県外出張検査

委員より（1）から（6）について報告。

- ・前回の会議で設置することとされた（3）について、委員より説明。
- ・症例の病理診断については、コンセンサス会議を経て、当検討部会において確定することとされた。
- ・コンセンサス会議における学外の委員について、次回より検討部会の委員として追加することとされた。

2 協議

- (1) 第 15 回検討委員会（H26.5.19 開催）にかかる甲状腺検査部門資料（案）について
- (2) 手術症例について

議題（1）、（2）について検討を行った。

3 その他

次回開催は 7 月 27 日（日）の予定。（後日 8 月 3 日（日）に変更）

第2回病理診断コンセンサス会議 概要記録

日時：平成26年6月8日（日）9：00～13：00

場所：福島県立医科大学附属病院

2階病理部 検鏡室

【出席者】

[委員] ██████████ 橋本教授、田崎准教授

[オブザーバー] 鈴木（眞）部門長、志村副室長、大津留教授

[事務局] 高島副室長、逸見主任医療技師、阿部医療技師、坂本主事

(記録作成) 逸見主任医療技師、坂本主事

【議 題】

(1) 会議の進行について

(2) 症例検討

議題(1)、(2)について検討を行った。

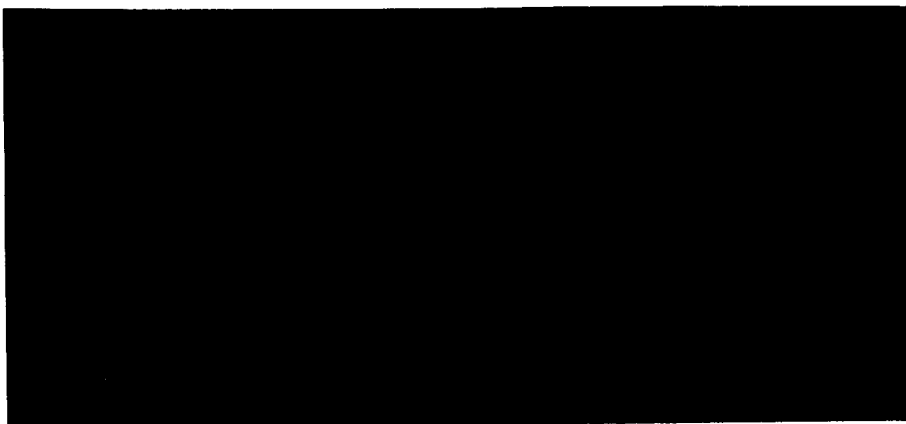
以下、概要。

(1) 会議の運営について

- ・ 一例ずつ検討を行い、別途作成した県民健康調査用の病理診断報告書により所見を記入し、委員の承認を得ることとした。

- ・ 代表は ██████████ に決定した。

(2) 症例検討



- ・ 次回の開催は6月30日（月）と7月14日（月）の予定。


第3回病理診断コンセンサス会議 概要記録

日時：平成26年6月30日（月）9：00～12：00

場所：福島県立医科大学附属病院

2階病理部 検鏡室

【出席者】

[委員]  橋本教授、田崎准教授

[オブザーバー] 鈴木真一 部門長、志村副室長、鈴木悟 室長、福島准教授

[事務局] 高島副室長、逸見主任医療技師、氏家医療技師、坂本主事

(記録作成) 逸見主任医療技師、坂本主事

【議 題】

(1) 症例検討

議題(1)について検討を行った。

以下、概要。

(1) 症例検討

- ・ 次回の開催は、7月14日（月）の予定。


第4回病理診断コンセンサス会議 概要記録

日時：平成26年7月14日（月）8:55～11:00

場所：福島県立医科大学附属病院

2階病理部 検鏡室

【出席者】

[委員]  橋本教授、田崎准教授

[オブザーバー] 鈴木真一 部門長、志村 副室長

[参加医師] 大津留晶 教授

[事務局] 高島 副室長、逸見 主任医療技師、氏家 医療技師、坂本 主事

(記録作成) 逸見 主任医療技師、坂本 主事

【議 題】

(1) 議事録について

(2) 症例検討

議題(1)、(2)について検討を行った。

以下、概要。

(1) 議事録について

・前回までの議事録の再確認を行った。

(2) 症例検討



・ 次回の開催は、10月27日（月）の予定。

報告4

県内検査実施機関一覧

平成26年7月31日現在

所在地		医療機関名	一次検査開始 又は予約確定	二次検査開始 又は予約確定
県北	福島市	あづま脳神経外科病院	○	
		大原総合病院		
		済生会福島総合病院		
	伊達市	中野病院	○	
県中	郡山市	星総合病院		○
		菊池医院	○	
		郡山市健康振興財団		
会津	会津若松市	会津中央病院	○	○
いわき	いわき市	福島労災病院		○
		松村総合病院	○	
		ふじい医院	○	
		呉羽総合病院		
計		12医療機関		

県外検査実施機関一覧

※ 前回から新しく協定締結した機関及び二次検査を開始（予約確定）した機関には☆を付けています。

平成26年7月31日現在

所在地		医療機関名	H25及びH26年度協定締結機関	二次検査開始又は予約確定	所在地	医療機関名	H25及びH26年度協定締結機関	二次検査開始又は予約確定
北海道	札幌市	上條甲状腺クリニック			石川県	内灘町 金沢医科大学病院		
		北海道大学病院			福井県	福井市 福井県立病院		☆
		さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック	○		山梨県	中央市 山梨大学医学部附属病院		
	函館市	函館五稜郭病院	○					
青森県	弘前市	弘前大学医学部附属病院			長野県	松本市 相澤病院		
岩手県	盛岡市	栗原クリニック				飯田市 飯田市立病院		
		岩手県立中央病院	○	☆	岐阜県	多治見市 岐阜県立多治見病院		
		たにむらクリニック	☆		静岡県	静岡市 桜ヶ丘病院		○
宮城県	仙台市	森洋子クリニック				浜松市 浜松医科大学医学部附属病院		
		東北大学病院		○	愛知県	名古屋市中区 名古屋大学医学部附属病院		○
秋田県	秋田市	秋田大学医学部附属病院			豊川市 豊川市民病院			
山形県	山形市	山形大学医学部附属病院			長久手市 愛知医科大学病院	○	○	
		山形市立病院済生館	☆		三重県	松阪市 松阪中央総合病院		
	酒田市	日本海総合病院	○		滋賀県	大津市 滋賀医科大学医学部附属病院		
茨城県	水戸市	水府病院			京都府	京都市 京都医療センター		
	つくば市	筑波大学附属病院				京都市 京都府立医科大学附属病院		
	日立市	日立総合病院	☆		大阪府	大阪市 すみれ病院		
鹿嶋市	小山記念病院	☆		大阪市 大阪市立大学医学部附属病院				
栃木県	宇都宮市	栃木県立がんセンター				吹田市 大阪大学医学部附属病院		☆
	佐野市	佐野厚生総合病院				泉佐野市 りんくう総合医療センター		
	日光市	獨協医科大学日光医療センター			高槻市 高松内科クリニック	○		
	下野市	自治医科大学附属病院			堺市 市立堺病院	○		
	壬生町	獨協医科大学病院		○	兵庫県	神戸市 隈病院		☆
群馬県	前橋市	群馬大学医学部附属病院			奈良県	生駒市 近畿大学医学部奈良病院		
埼玉県	狭山市	埼玉石心会病院 (さやま総合クリニック)			和歌山県	和歌山市 和歌山県立医科大学附属病院		
千葉県	千葉市	千葉大学医学部附属病院			鳥取県	米子市 鳥取大学医学部附属病院		
	市原市	帝京大学ちば総合医療センター			島根県	出雲市 島根大学医学部附属病院		
	柏市	国立がん研究センター東病院	○		岡山県	岡山市 岡山大学病院		
港区	東京慈恵会医科大学附属病院			岡山市 岡山医療センター			○	
		虎の門病院		☆	倉敷市 川崎医科大学附属病院			
東京都	文京区	日本医科大学付属病院		☆	広島県	広島市 土谷総合病院		
	太田区	東邦大学医療センター大森病院		☆	山口県	宇部市 山口大学医学部附属病院		
	世田谷区	国立成育医療研究センター			徳島県	徳島市 徳島市民病院		
	渋谷区	伊藤病院			香川県	高松市 高松赤十字病院		
	豊島区	池袋病院			愛媛県	東温市 愛媛大学医学部附属病院		
		アーバンハイッククリニック			高知県	南国市 高知大学医学部附属病院		
		南池袋パークサイドクリニック	○		福岡県	福岡市 やましたクリニック		
	北区	金地病院	☆			久留米市 久留米大学病院		
	小平市	公立昭和病院		○	佐賀県	佐賀市 小池病院		
	神奈川県	横浜市	横浜市立大学附属市民総合医療センター			長崎県	長崎市 長崎大学病院	
昭和大学藤が丘病院			○	☆			大村市 長崎医療センター	
相模原市		北里大学病院			熊本県	熊本市 田尻クリニック		
	川崎市	川崎幸クリニック	○		大分県	別府市 野口病院		
新潟県	新潟市	新潟大学医歯学総合病院			宮崎県	宮崎市 宮崎大学医学部附属病院		
富山県	上市町	かみいち総合病院			鹿児島県	鹿児島市 鹿児島大学病院		
					沖縄県	浦添市 浦添総合病院		

計	90医療機関
---	--------

甲状腺検査（新潟県柏崎市・新潟市）実施結果

報告5
H26.8.3

◆ 出張検査実施報告

現在、新潟県内では1検査機関において甲状腺検査を実施しているが、希望者が多くいるため、今回、新潟県内に居住している対象者等に対して2日間（2市）にわたり、本学から現地に出張し、甲状腺検査を実施した。

実施に際しては、対象者に出張検査のお知らせを送付し、下記検査実施日に検査を希望するかの確認を行い、検査希望者について検査を実施した。

なお、今回の検査は2日とも健診車両（2台）を利用し、3ブースで検査を行った。

◆ 検査実施場所

(1) 平成26年6月28日（土）柏崎市産業文化会館

(2) 平成26年6月29日（日）新潟市東区プラザ

◆ 検査実施結果（対象者1,394名、希望者397名、受診者375名）

受診率94.5%（受診者／希望者）

○ 平成26年6月28日（土）13時00分から17時00分

受診者：177名

○ 平成26年6月29日（日）9時30分から12時00分、13時00分から14時30分

受診者：198名

○ 検査実施対応

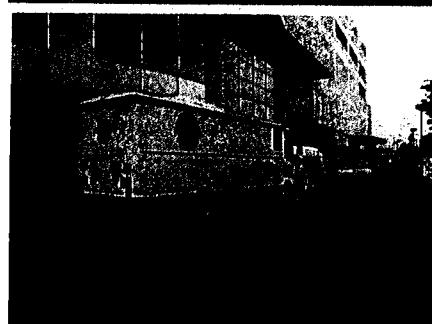
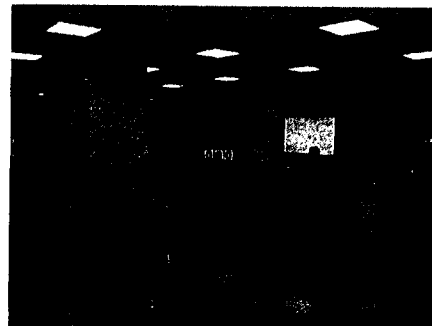
14名（検者3名、介助・事務11名）

○ 会場風景

（柏崎市産業文化会館）



（新潟市東区プラザ）



議題1
※資料回収

県民健康調査「甲状腺検査」の実施状況について（案）

I 先行検査

1 進捗状況及び結果概要

(1) 一次検査

平成23年10月から平成26年6月30日現在まで、296,032名について1回目の甲状腺検査（先行検査）を実施しており、全体の受診率は80.5%となっている。※¹

また、平成24年11月1日から実施している福島県外の検査実施機関については、平成26年7月22日現在、全ての都道府県において、90の検査実施機関と協定を締結している。※²

なお、受診者296,032名のうち、99.9%の受診者については検査結果が確定し、結果通知を発送している。※^{3,4}

進捗状況

平成26年6月30日現在

	対象者数 (人) ア	受診者数(人)		判定率 (%) ウ(ウ/イ)	結果判定数(人)							
		受診率 (%) イ(イ/ア)	うち県外 受診		判定区分別内訳(割合(%))							
					A				二次検査対象者			
					A1	エ(エ/ウ)	A2	オ(オ/ウ)	B	カ(カ/ウ)	C	キ(キ/ウ)
平成23年度 実施対象市町村計	47,780	41,811 (87.5)	2,025	41,810 (100.0)	26,373 (63.1)	15,216 (36.4)	221 (0.5)	0 (0.0)				
平成24年度 実施対象市町村計	161,153	139,212 (86.4)	4,233	139,099 (99.9)	76,090 (54.7)	62,023 (44.6)	985 (0.7)	1 (0.0)				
平成25年度 実施対象市町村計	158,828	115,009 (72.4)	2,937	114,787 (99.8)	49,923 (43.5)	63,834 (55.6)	1,030 (0.9)	0 (0.0)				
合計	367,761	296,032 (80.5)	9,195	295,696 (99.9)	152,386 (51.5)	141,073 (47.7)	2,236 (0.8)	1 (0.0)				

結節・のう胞の人数・割合

平成26年6月30日現在

	結果確定数(人) ア	アに対する結節・のう胞の人数(割合)			
		結節		のう胞	
		5.1mm以上 イ(イ/ア)	5.0mm以下 ウ(ウ/ア)	20.1mm以上 エ(エ/ア)	20.0mm以下 オ(オ/ア)
平成23年度 実施対象市町村計	41,810	219 (0.5)	232 (0.6)	1 (0.0)	15,140 (36.2)
平成24年度 実施対象市町村計	139,099	971 (0.7)	728 (0.5)	9 (0.0)	62,135 (44.7)
平成25年度 実施対象市町村計	114,787	1,028 (0.9)	711 (0.6)	2 (0.0)	64,120 (55.9)
合計	295,696	2,218 (0.8)	1,671 (0.6)	12 (0.0)	141,395 (47.8)

※¹市町村別受診状況は、「資料編 I 先行検査」資料1のとおり。

※²本県以外の都道府県別受診状況は、資料2のとおり。

※³市町村別結果状況は、資料3のとおり。

※⁴検査結果確定者の年齢と性別の分布等は資料4のとおり。

●小数点第一位で表示されている割合のものは、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。

(2) 二次検査

平成24年3月から実施した二次検査については、対象者2,237名のうち87.2%の方が受診し、そのうち94.7%の方が二次検査を終了している。※⁵

また、県内では平成25年7月から郡山市及びいわき市の2か所の検査実施機関において、二次検査を実施し、平成25年11月からは県外検査実施機関の一部においても二次検査を実施している。

なお、二次検査対象者については、こころのケアサポートや「WEB相談」による質問・相談を受け付けるサポートチームを結成し対応している。また、保険診療移行後の方についても同様の対応をしている。

進捗状況

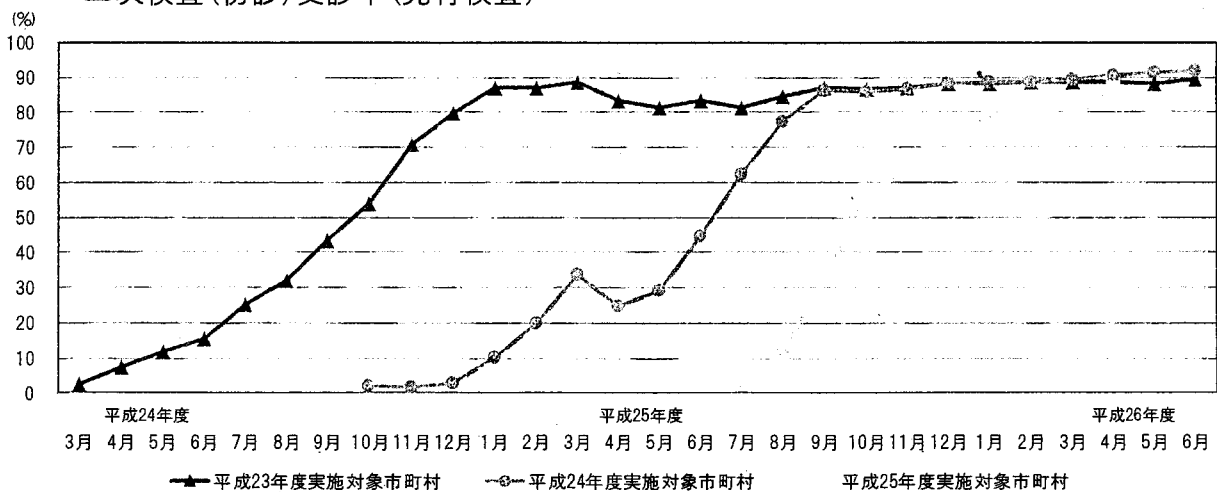
平成26年6月30日現在

	対象者数 (人) ア	受診者数(人) イ (イ/ア) 受診率 (%)	結果確定数(人) ウ (ウ/イ) 確定率 (%)	結果確定数(人)			
				次回検査		通常診療等	
				A1 エ (エ/ウ)	A2 オ (オ/ウ)	カ (カ/ウ)	うち細胞診受診者 キ (キ/カ)
平成23年度 実施対象市町村計	221	198 (89.6)	194 (98.0)	12 (6.2)	42 (21.6)	140 (72.2)	91 (65.0)
平成24年度 実施対象市町村計	986	907 (92.0)	880 (97.0)	52 (5.9)	235 (26.7)	593 (67.4)	257 (43.3)
平成25年度 実施対象市町村計	1,030	846 (82.1)	774 (91.5)	45 (5.8)	237 (30.6)	492 (63.6)	137 (27.8)
合計	2,237	1,951 (87.2)	1,848 (94.7)	109 (5.9)	514 (27.8)	1,225 (66.3)	485 (39.6)

※⁵ 市町村別実施状況は資料5のとおり。

- 早期に診察が必要と判断した方については優先的に二次検査を実施。
- 次回検査 (A1、A2) は一次検査基準の範囲内であることが確認された方 (甲状腺に疾病のある方を含む)。
- 通常診療等は概ね6ヶ月後又は1年後に経過観察 (保険診療) する方及びA2基準値を超える等の方。

二次検査 (初診) 受診率 (先行検査)



- 各年度実施対象市町村別の二次検査受診率 (初診)。
(二次検査初診者数[累積] / 二次検査対象者数[累積])

2 穿刺吸引細胞診等結果概要

(1) 細胞診結果 (平成 26 年 6 月 30 日現在)

ア 平成 23 年度実施対象市町村

- ・悪性ないし悪性疑い 15 人 (手術 13 人：良性結節 1 人、乳頭癌 11 人、低分化癌 1 人)
- ・男性：女性 5 人：10 人
- ・平均年齢 17.3 ± 2.0 歳 (13-20 歳)、震災当時 15.7 ± 1.9 歳 (11-18 歳)
- ・平均腫瘍径 14.1 ± 6.6 mm (6.0-33.0 mm)

イ 平成 24 年度実施対象市町村

- ・悪性ないし悪性疑い 54 人 (手術 41 人：乳頭癌 41 人)
- ・男性：女性 21 人：33 人
- ・平均年齢 17.2 ± 2.7 歳 (8-21 歳)、震災当時 14.9 ± 2.6 歳 (6-18 歳)
- ・平均腫瘍径 14.5 ± 7.9 mm (5.2-40.5 mm)

ウ 平成 25 年度実施対象市町村

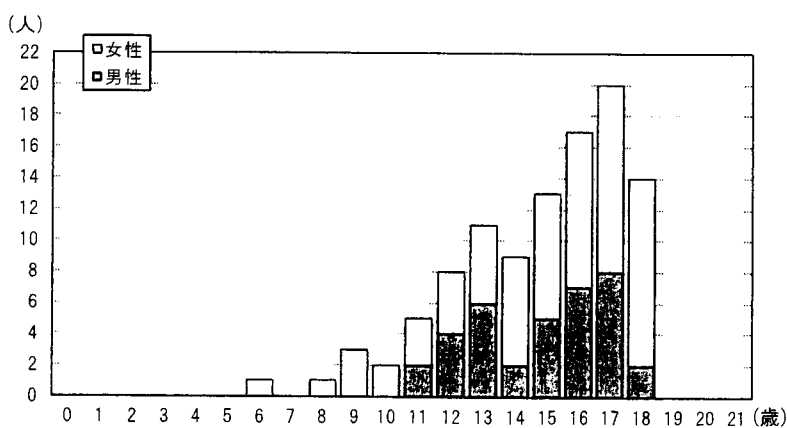
- ・悪性ないし悪性疑い 35 人 (手術 4 人：乳頭癌 3 人、低分化癌 1 人)
- ・男性：女性 10 人：25 人
- ・平均年齢 16.9 ± 3.0 歳 (11-21 歳)、震災当時 14.2 ± 2.9 歳 (8-18 歳)
- ・平均腫瘍径 13.7 ± 7.2 mm (5.1-35.9 mm)

平成 23-25 年度合計

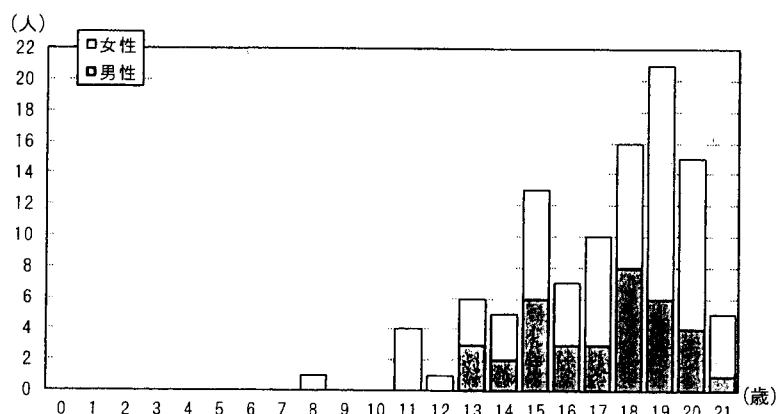
- ・悪性ないし悪性疑い 104 人
(手術 58 人：良性結節 1 人、乳頭癌 55 人、低分化癌 2 人)
- ・男性：女性 36 人：68 人
- ・平均年齢 17.1 ± 2.7 歳 (8-21 歳)、震災当時 14.8 ± 2.6 歳 (6-18 歳)
- ・平均腫瘍径 14.2 ± 7.5 mm (5.1-40.5 mm)

(2) 細胞診で悪性ないし悪性疑いであった 104 人の年齢、性分布

ア 平成 23 年 3 月 11 日時点の年齢による分布表



イ 二次検査時点の年齢による分布表



(3) 細胞診等による悪性ないし悪性疑いの104人の基本調査結果

基本調査問診票を提出した方は57人(54.8%)で結果通知されたのが43人である。そのうち1mSv未満の方が29人(67.4%)となっている。今後も、引き続き問診票の意義や重要性を説明し、提出していただくよう働きかけていく。

基本調査提出者の実効線量推計内訳

(人)

実効線量 (mSv)	男女別	震災時年齢(歳)					合計
		0~5	6~10	11~15	16~18		
~0.5未満	男性	0	0	1	3	4	
	女性	0	2	4	8	14	
~1.0未満	男性	0	0	3	2	5	
	女性	0	1	0	5	6	
~1.5未満	男性	0	0	2	1	3	
	女性	0	0	4	1	5	
~2.0未満	男性	0	0	1	0	1	
	女性	0	0	2	2	4	
~2.5未満	男性	0	0	1	0	1	
	女性	0	0	0	0	0	
合計	男性	0	0	8	6	14	
	女性	0	3	10	16	29	

(4) 血液検査及び尿中ヨウ素 (平成26年6月30日現在)

血液データ 平均±SD (異常値の割合)

	FT4 ₁ (ng/dL)	FT3 ₂ (pg/mL)	TSH ₃ (μIU/mL)	Tg ₄ (ng/mL)	TgAb ₅ (IU/mL)	TPOAb ₆ (IU/mL)
基準値	0.95~1.74	2.13~4.07 ※7	0.340~3.880	32.7以下	28.0未満	16.0未満
悪性ないし悪性疑い104人	1.2 ± 0.2 (2.9%)	3.4 ± 0.4 (0.0%)	1.3 ± 0.7 (3.8%)	38.8 ± 79.9 (35.6%)	— (27.9%)	— (15.4%)
その他1,845人	1.3 ± 0.3 (3.6%)	3.6 ± 0.9 (1.5%)	1.8 ± 12.4 (6.2%)	33.6 ± 184.7 (17.5%)	— (13.2%)	— (9.6%)

尿中ヨウ素 (μg/day)

	最小値	25%値	中央値	75%値	最大値
悪性ないし悪性疑い104人	42	134	230	370	6,020
その他1,843人	24	121	198	368	35,700

- ※1 FT4…ヨードの数が4つの甲状腺ホルモン。バセドウ病では高値、橋本病では低値。
- ※2 FT3…ヨードの数が3つの甲状腺ホルモン。バセドウ病では高値、橋本病では低値。
- ※3 TSH…脳の下垂体から出ているホルモンで甲状腺へ甲状腺ホルモンを出すよう命令する。橋本病では高値、バセドウ病では低値。
- ※4 Tg(サイログロブリン)…甲状腺ホルモンになる直前の物質。甲状腺内に多量に存在する。甲状腺が破壊されたり、腫瘍がTgを産生していたりする場合に高値。
- ※5 TgAb…サイログロブリンに対する自己抗体。橋本病やバセドウ病で高値。
- ※6 TPOAb…ペルオキシダーゼという酵素に対する自己抗体。橋本病やバセドウ病で高値。
- ※7 基準値は年齢ごとに異なる。

(5) 市町村別二次検査結果 (平成26年6月30日現在)

平成23年度実施対象市町村別検査結果(国が指定した避難区域等の13市町村)

	一次検査受診者 (人) ア	二次検査対象者 (人) イ	二次検査率 (%) イ/ア	二次検査受診者 (人)	悪性ないし悪性 疑い(人) ウ※1	悪性ないし悪性 疑いの割合(%) ウ/ア
川俣町	2,221	8	0.4	8	2	0.09
浪江町	3,249	26	0.8	23	2	0.06
飯館村	943	6	0.6	6	0	0.00
南相馬市	10,787	52	0.5	48	2	0.02
伊達市	10,606	50	0.5	45	2	0.02
田村市	6,327	32	0.5	27	3	0.05
広野町	838	5	0.6	4	0	0.00
楢葉町	1,153	7	0.6	6	0	0.00
富岡町	2,302	13	0.6	12	1	0.04
川内村	280	4	1.4	4	1	0.36
大熊町	1,973	14	0.7	12	1	0.05
双葉町	949	3	0.3	2	0	0.00
葛尾村	183	1	0.5	1	0	0.00
小計	41,811	221	0.5	198	14	0.03

※1 細胞診結果において悪性疑いで手術後良性であった1人は含めない。

平成24年度実施対象市町村別検査結果

	一次検査受診者 (人) ア	二次検査対象者 (人) イ	二次検査率 (%) イ/ア	二次検査受診者 (人)	悪性ないし悪性 疑い(人) ウ	悪性ないし悪性 疑いの割合(%) ウ/ア
福島市	47,339	283	0.6	266	12	0.03
二本松市	8,846	55	0.6	52	5	0.06
本宮市	5,233	29	0.6	28	3	0.06
大玉村	1,372	7	0.5	7	2	0.15
郡山市	53,964	458	0.8	416	23	0.04
桑折町	1,857	14	0.8	11	0	0.00
国見町	1,429	15	1.0	13	0	0.00
天栄村	878	7	0.8	6	0	0.00
白河市	10,805	61	0.6	60	6	0.06
西郷村	3,618	30	0.8	26	1	0.03
泉崎村	1,156	5	0.4	5	1	0.09
三春町	2,715	22	0.8	17	1	0.04
小計	139,212	986	0.7	907	54	0.04

平成25年度市町村別検査結果

	一次検査受診者 (人) ア	二次検査対象者 (人) イ	二次検査率 (%) イ/ア	二次検査受診者 (人)	悪性ないし悪性 疑い(人) ウ	悪性ないし悪性 疑いの割合(%) ウ/ア
いわき市	47,759	429	0.9	363	19	0.04
須賀川市	11,532	101	0.9	82	4	0.03
相馬市	5,046	46	0.9	41	0	0.00
鏡石町	1,947	9	0.5	6	0	0.00
新地町	1,105	7	0.6	7	0	0.00
中島村	801	2	0.2	2	0	0.00
矢吹町	2,453	17	0.7	10	0	0.00
石川町	2,080	11	0.5	10	1	0.05
矢祭町	774	3	0.4	2	0	0.00
浅川町	1,067	12	1.1	10	0	0.00
平田村	824	9	1.1	7	1	0.12
棚倉町	2,260	22	1.0	22	1	0.04
埴町	1,210	8	0.7	6	0	0.00
鮫川村	503	3	0.6	1	0	0.00
小野町	1,315	14	1.1	12	0	0.00
玉川村	983	10	1.0	8	0	0.00
古殿町	791	6	0.8	6	0	0.00
檜枝岐村	61	0	0.0	0	0	0.00
南会津町	1,803	16	0.9	14	0	0.00
金山町	136	0	0.0	0	0	0.00
昭和村	101	0	0.0	0	0	0.00
三島町	129	1	0.8	1	0	0.00
下郷町	699	10	1.4	8	1	0.14
喜多方市	5,699	46	0.8	35	0	0.00
西会津町	638	5	0.8	4	0	0.00
只見町	492	7	1.4	6	0	0.00
猪苗代町	1,871	13	0.7	10	1	0.05
磐梯町	413	4	1.0	3	0	0.00
北塩原村	382	1	0.3	1	0	0.00
会津美里町	2,547	26	1.0	19	0	0.00
会津坂下町	2,074	25	1.2	21	1	0.05
柳津町	375	2	0.5	2	0	0.00
会津若松市	14,632	158	1.1	122	5	0.03
湯川村	507	7	1.4	5	1	0.20
小計	115,009	1030	0.9	846	35	0.03
合計	296,032	2,237	0.8	1,951	103	0.03

II 本格検査

1 進捗状況及び結果概要

(1) 一次検査

平成26年度の検査は、平成26年4月2日から実施し、今年度は25市町村の約220千名の方を対象としている。対象者には順次検査実施のお知らせを送付する。

また、対象者の利便性を考慮し、県内各地の医療機関でも検査が受診できるよう調整を進めており、まずは協定を締結した4医療機関において順次検査を実施している。

平成26年6月30日現在、28,723名について検査を実施している。※¹

福島県外の検査実施機関についても、引き続き協定を締結し検査を実施している。※²

なお、受診者28,723名のうち、22.5%の受診者については検査結果が確定し、結果通知を送している。※³

進捗状況

平成26年6月30日現在

	対象者数 (人) ア	受診者数(人)		判定率 (%) ウ(ウ/イ)	結果判定数(人)			
		受診率 (%) イ(イ/ア)	うち県外 受診		判定区分別内訳(割合(%))			
					A		二次検査対象者	
					A1 エ(エ/ウ)	A2 オ(オ/ウ)	B カ(カ/ウ)	C キ(キ/ウ)
平成26年度実施市町村	213,223	28,524 (13.4)	1,893	6,458 (22.6)	2,737 (42.4)	3,675 (56.9)	46 (0.7)	0 (0.0)
平成27年度実施市町村	199	199 (100.0)	1	4 (2.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
合計	213,422	28,723 (13.5)	1,894	6,462 (22.5)	2,738 (42.4)	3,678 (56.9)	46 (0.7)	0 (0.0)

結節・のう胞の人数・割合

平成26年6月30日現在

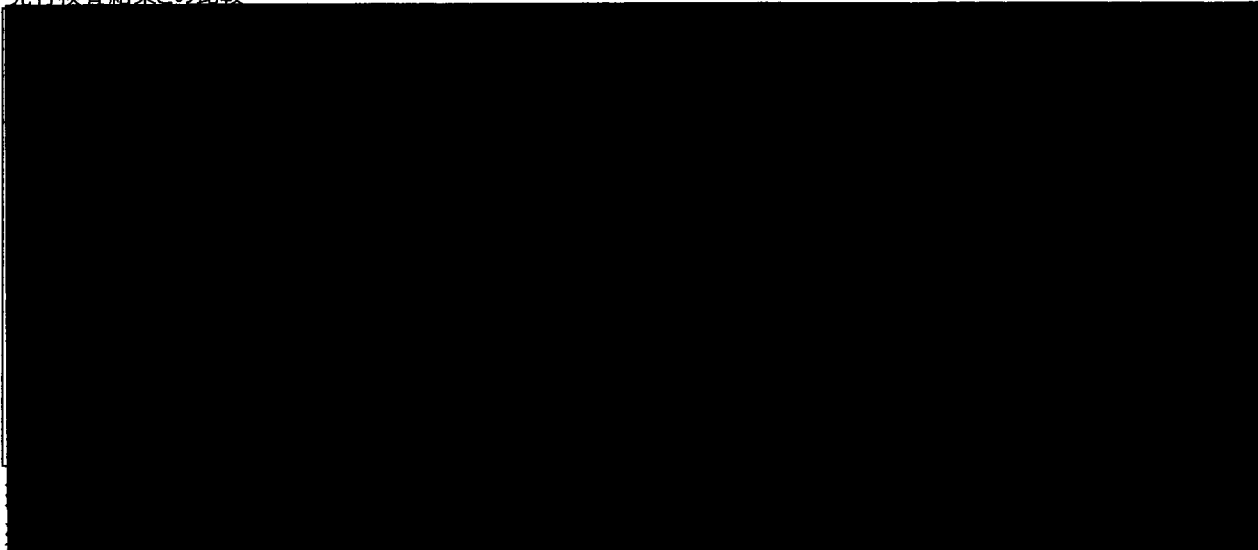
	結果確定数(人) ア	アに対する結節・のう胞の人数(割合)			
		結節		のう胞	
		5.1mm以上 イ(イ/ア)	5.0mm以下 ウ(ウ/ア)	20.1mm以上 エ(エ/ア)	20.0mm以下 オ(オ/ア)
平成26年度実施市町村計	6,458	46 (0.7)	46 (0.7)	0 (0.0)	3,686 (57.1)
平成27年度実施市町村計	4	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)
合計	6,462	46 (0.7)	46 (0.7)	0 (0.0)	3,689 (57.1)

※¹市町村別受診状況は、資料1のとおり。

※²本県以外の都道府県別受診状況は、資料2のとおり。

※³市町村別結果状況は、資料3のとおり。

●小数点第一位で表示されている割合のものは、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。



(2) 二次検査

平成26年6月からは本格検査対象者についても二次検査を実施しており、対象者46名のうち47.8%の方が受診し、そのうち13.6%の方が二次検査を終了している。※⁵

また、県内2か所の検査実施機関や県外検査実施機関の一部においても、引き続き二次検査を実施している。

進捗状況

	対象者数 (人) ア	受診者数(人) 受診率 (%) イ(イ/ア)	確定率 (%) ウ(ウ/イ)	結果確定数(人)			
				次回検査		通常診療等	
				A1 エ(エ/ウ)	A2 オ(オ/ウ)	カ(カ/ウ)	うち細胞診受診者 キ(キ/カ)
平成26年度 実施市町村 計	46	22 (47.8)	3 (13.6)	0 (0.0)	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
平成27年度 実施市町村 計	0	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
合計	46	22 (47.8)	3 (13.6)	0 (0.0)	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

※⁵ 市町村別実施状況は資料5のとおり。

- 早期に診察が必要と判断した方については優先的に二次検査を実施。
- 次回検査(A1、A2)は一次検査基準の範囲内であることが確認された方(甲状腺に疾病のある方を含む)。
- 通常診療等は概ね6ヶ月後又は1年後に経過観察(保険診療)する方及びA2基準値を超える等の方。

資料 2

都道府県別一次検査受診状況

【先行検査】

平成26年6月30日現在

都道府県名	県外検査 実施機関数	受診者数 (人)
北海道	4	328
青森県	1	158
岩手県	2	185
宮城県	2	1,501
秋田県	1	206
山形県	3	434
茨城県	2	430
栃木県	5	442
群馬県	1	182
埼玉県	1	239
千葉県	3	272
東京都	10	1,737
神奈川県	4	723
新潟県	1	609
富山県	1	32
石川県	1	45

都道府県名	県外検査 実施機関数	受診者数 (人)
福井県	1	22
山梨県	1	82
長野県	2	131
岐阜県	1	43
静岡県	2	108
愛知県	3	170
三重県	1	38
滋賀県	1	20
京都府	2	97
大阪府	6	208
兵庫県	2	134
奈良県	1	25
和歌山県	1	12
鳥取県	1	15
島根県	1	13
岡山県	3	76

都道府県名	県外検査 実施機関数	受診者数 (人)
広島県	1	36
山口県	1	24
徳島県	1	10
香川県	1	29
愛媛県	1	20
高知県	1	14
福岡県	2	77
佐賀県	1	7
長崎県	2	23
熊本県	1	25
大分県	1	35
宮崎県	1	35
鹿児島県	1	28
沖縄県	1	115
合計	87	9,195

【本格検査】

平成26年6月30日現在

都道府県名	県外検査 実施機関数	受診者数 (人)
北海道	4	16
青森県	1	19
岩手県	2	27
宮城県	2	457
秋田県	1	31
山形県	3	71
茨城県	2	113
栃木県	5	110
群馬県	1	4
埼玉県	1	36
千葉県	3	52
東京都	10	228
神奈川県	4	231
新潟県	1	363
富山県	1	0
石川県	1	6

都道府県名	県外検査 実施機関数	受診者数 (人)
福井県	1	5
山梨県	1	32
長野県	2	5
岐阜県	1	8
静岡県	2	8
愛知県	3	15
三重県	1	0
滋賀県	1	1
京都府	2	2
大阪府	6	16
兵庫県	2	17
奈良県	1	0
和歌山県	1	0
鳥取県	1	0
島根県	1	0
岡山県	3	6

都道府県名	県外検査 実施機関数	受診者数 (人)
広島県	1	0
山口県	1	2
徳島県	1	1
香川県	1	0
愛媛県	1	0
高知県	1	0
福岡県	2	3
佐賀県	1	0
長崎県	2	0
熊本県	1	0
大分県	1	0
宮崎県	1	3
鹿児島県	1	0
沖縄県	1	6
合計	87	1,894

- 受診者数は県外検査実施機関及び福島県立医科大学から出向いて実施した検査を受診した人数。
- 福島県立医科大学から出向いて検査を行ったのは、新潟県(2回)・山形県(2回)・神奈川県(1回)。

資料3

市町村別一次検査結果

【先行検査】

平成23年度 実施対象市町村検査結果(国が指定した避難区域等の13市町村)

平成26年6月30日現在

	受診者 (人) ア	結果確定数 (人) イ 進捗状況 イ/ア (%)	判定区分別人数(人)				結節(人)		のう胞(人)	
			判定区分別割合(%)				結節の割合(%)		のう胞の割合(%)	
			A		B	C	5.1mm 以上	5.0mm 以下	20.1mm 以上	20.0mm 以下
			A1	A2						
川 俣 町	2,221	2,221 100.0	1,519 68.4	694 31.2	8 0.4	0 0.0	8 0.4	17 0.8	0 0.0	682 30.7
浪 江 町	3,249	3,249 100.0	2,119 65.2	1,104 34.0	26 0.8	0 0.0	26 0.8	42 1.3	0 0.0	1,088 33.5
飯 館 村	943	942 99.9	693 73.6	243 25.8	6 0.6	0 0.0	6 0.6	15 1.6	0 0.0	232 24.6
南 相 馬 市	10,787	10,787 100.0	6,788 62.9	3,947 36.6	52 0.5	0 0.0	52 0.5	87 0.8	0 0.0	3,904 36.2
伊 達 市	10,606	10,606 100.0	6,748 63.6	3,808 35.9	50 0.5	0 0.0	48 0.5	31 0.3	1 0.0	3,809 35.9
田 村 市	6,327	6,327 100.0	4,002 63.3	2,293 36.2	32 0.5	0 0.0	32 0.5	11 0.2	0 0.0	2,299 36.3
広 野 町	838	838 100.0	521 62.2	312 37.2	5 0.6	0 0.0	5 0.6	3 0.4	0 0.0	313 37.4
檜 葉 町	1,153	1,153 100.0	651 56.5	495 42.9	7 0.6	0 0.0	7 0.6	4 0.3	0 0.0	498 43.2
富 岡 町	2,302	2,302 100.0	1,350 58.6	939 40.8	13 0.6	0 0.0	13 0.6	8 0.3	0 0.0	939 40.8
川 内 村	280	280 100.0	156 55.7	120 42.9	4 1.4	0 0.0	4 1.4	1 0.4	0 0.0	120 42.9
大 熊 町	1,973	1,973 100.0	1,140 57.8	819 41.5	14 0.7	0 0.0	14 0.7	7 0.4	0 0.0	816 41.4
双 葉 町	949	949 100.0	570 60.1	376 39.6	3 0.3	0 0.0	3 0.3	3 0.3	0 0.0	375 39.5
葛 尾 村	183	183 100.0	116 63.4	66 36.1	1 0.5	0 0.0	1 0.5	3 1.6	0 0.0	65 35.5
小計	41,811	41,810 100.0	26,373 63.1	15,216 36.4	221 0.5	0 0.0	219 0.5	232 0.6	1 0.0	15,140 36.2

- 小数点第一位で表示されている割合のものは、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 対象者のうち、在籍している学校で検査を受診した方などについては一部、学校等の所在市町村に含め、集計していたが、そのような対象者については、今回、震災時市町村に再集計した。

	受診者 (人) ア	結果確定数 (人) イ 進捗状況 イ/ア (%)	判定区分別人数(人)				結節(人)		のう胞(人)	
			判定区分別割合(%)				結節の割合(%)		のう胞の割合(%)	
			A		B	C	5.1mm 以上	5.0mm 以下	20.1mm 以上	20.0mm 以下
			A1	A2						
福島市	47,339	47,311 99.9	26,961 57.0	20,067 42.4	283 0.6	0 0.0	276 0.6	196 0.4	3 0.0	20,084 42.5
二本松市	8,846	8,831 99.8	5,185 58.7	3,591 40.7	54 0.6	1 0.0	54 0.6	46 0.5	1 0.0	3,592 40.7
本宮市	5,233	5,228 99.9	2,952 56.5	2,247 43.0	29 0.6	0 0.0	27 0.5	25 0.5	1 0.0	2,251 43.1
大玉村	1,372	1,372 100.0	816 59.5	549 40.0	7 0.5	0 0.0	7 0.5	8 0.6	0 0.0	549 40.0
郡山市	53,964	53,922 99.9	27,867 51.7	25,597 47.5	458 0.8	0 0.0	454 0.8	331 0.6	3 0.0	25,681 47.6
桑折町	1,857	1,850 99.6	1,015 54.9	821 44.4	14 0.8	0 0.0	14 0.8	9 0.5	0 0.0	822 44.4
国見町	1,429	1,425 99.7	760 53.3	650 45.6	15 1.1	0 0.0	14 1.0	9 0.6	1 0.1	654 45.9
天栄村	878	878 100.0	528 60.1	343 39.1	7 0.8	0 0.0	7 0.8	4 0.5	0 0.0	348 39.6
白河市	10,805	10,795 99.9	6,104 56.5	4,630 42.9	61 0.6	0 0.0	61 0.6	53 0.5	0 0.0	4,627 42.9
西郷村	3,618	3,618 100.0	2,085 57.6	1,503 41.5	30 0.8	0 0.0	30 0.8	21 0.6	0 0.0	1,503 41.5
泉崎村	1,156	1,156 100.0	523 45.2	628 54.3	5 0.4	0 0.0	5 0.4	11 1.0	0 0.0	624 54.0
三春町	2,715	2,713 99.9	1,294 47.7	1,397 51.5	22 0.8	0 0.0	22 0.8	15 0.6	0 0.0	1,400 51.6
小計	139,212	139,099 99.9	76,090 54.7	62,023 44.6	985 0.7	1 0.0	971 0.7	728 0.5	9 0.0	62,135 44.7

	受診者 (人) ア	結果確定数 (人) イ 進捗状況 イ/ア (%)	判定区分別人数(人)				結節(人)		のう胞(人)	
			判定区分別割合(%)				結節の割合(%)		のう胞の割合(%)	
			A		B	C	5.1mm 以上	5.0mm 以下	20.1mm 以上	20.0mm 以下
			A1	A2						
いわき市	47,759	47,676	20,992	26,255	429	0	428	277	1	26,364
		99.8	44.0	55.1	0.9	0.0	0.9	0.6	0.0	55.3
須賀川市	11,532	11,517	5,247	6,169	101	0	101	51	0	6,203
		99.9	45.6	53.6	0.9	0.0	0.9	0.4	0.0	53.9
相馬市	5,046	5,024	2,391	2,587	46	0	46	45	0	2,598
		99.6	47.6	51.5	0.9	0.0	0.9	0.9	0.0	51.7
鏡石町	1,947	1,947	919	1,019	9	0	9	8	0	1,020
		100.0	47.2	52.3	0.5	0.0	0.5	0.4	0.0	52.4
新地町	1,105	1,103	501	595	7	0	7	5	0	599
		99.8	45.4	53.9	0.6	0.0	0.6	0.5	0.0	54.3
中島村	801	801	376	423	2	0	2	9	0	420
		100.0	46.9	52.8	0.2	0.0	0.2	1.1	0.0	52.4
矢吹町	2,453	2,450	1,042	1,391	17	0	17	8	0	1,399
		99.9	42.5	56.8	0.7	0.0	0.7	0.3	0.0	57.1
石川町	2,080	2,079	951	1,117	11	0	11	15	0	1,117
		100.0	45.7	53.7	0.5	0.0	0.5	0.7	0.0	53.7
矢祭町	774	771	310	458	3	0	3	4	0	455
		99.6	40.2	59.4	0.4	0.0	0.4	0.5	0.0	59.0
浅川町	1,067	1,067	459	596	12	0	12	10	0	602
		100.0	43.0	55.9	1.1	0.0	1.1	0.9	0.0	56.4
平田村	824	824	371	444	9	0	9	2	0	450
		100.0	45.0	53.9	1.1	0.0	1.1	0.2	0.0	54.6
棚倉町	2,260	2,253	987	1,244	22	0	22	11	0	1,252
		99.7	43.8	55.2	1.0	0.0	1.0	0.5	0.0	55.6
塙町	1,210	1,209	489	712	8	0	8	9	0	715
		99.9	40.4	58.9	0.7	0.0	0.7	0.7	0.0	59.1
鮫川村	503	503	234	266	3	0	3	4	0	266
		100.0	46.5	52.9	0.6	0.0	0.6	0.8	0.0	52.9
小野町	1,315	1,314	509	791	14	0	14	13	0	793
		99.9	38.7	60.2	1.1	0.0	1.1	1.0	0.0	60.4
玉川村	983	983	437	536	10	0	10	6	0	540
		100.0	44.5	54.5	1.0	0.0	1.0	0.6	0.0	54.9
古殿町	791	786	381	399	6	0	6	5	0	403
		99.4	48.5	50.8	0.8	0.0	0.8	0.6	0.0	51.3

	受診者 (人) ア	結果確定数 (人) イ	判定区分別人数(人)				結節(人)		のう胞(人)	
		進捗状況 イ/ア (%)	判定区分別割合(%)				結節の割合(%)		のう胞の割合(%)	
			A		B	C	5.1mm 以上	5.0mm 以下	20.1mm 以上	20.0mm 以下
			A1	A2						
檜 枝 岐 村	61	61	25	36	0	0	0	3	0	34
		100.0	41.0	59.0	0.0	0.0	0.0	4.9	0.0	55.7
南 会 津 町	1,803	1,800	737	1,047	16	0	16	13	0	1,049
		99.8	40.9	58.2	0.9	0.0	0.9	0.7	0.0	58.3
金 山 町	136	134	63	71	0	0	0	1	0	71
		98.5	47.0	53.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	53.0
昭 和 村	101	101	56	45	0	0	0	0	0	45
		100.0	55.4	44.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.6
三 島 町	129	129	38	90	1	0	1	0	0	91
		100.0	29.5	69.8	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	70.5
下 郷 町	699	688	316	362	10	0	10	4	0	365
		98.4	45.9	52.6	1.5	0.0	1.5	0.6	0.0	53.1
喜 多 方 市	5,699	5,692	2,263	3,383	46	0	46	40	0	3,390
		99.9	39.8	59.4	0.8	0.0	0.8	0.7	0.0	59.6
西 会 津 町	638	638	243	390	5	0	5	5	0	392
		100.0	38.1	61.1	0.8	0.0	0.8	0.8	0.0	61.4
只 見 町	492	492	202	283	7	0	7	3	0	285
		100.0	41.1	57.5	1.4	0.0	1.4	0.6	0.0	57.9
猪 苗 代 町	1,871	1,867	776	1,078	13	0	13	13	0	1,079
		99.8	41.6	57.7	0.7	0.0	0.7	0.7	0.0	57.8
磐 梯 町	413	411	166	241	4	0	4	2	0	243
		99.5	40.4	58.6	1.0	0.0	1.0	0.5	0.0	59.1
北 塩 原 村	382	382	160	221	1	0	1	3	0	221
		100.0	41.9	57.9	0.3	0.0	0.3	0.8	0.0	57.9
会 津 美 里 町	2,547	2,544	1,057	1,461	26	0	26	17	0	1,473
		99.9	41.5	57.4	1.0	0.0	1.0	0.7	0.0	57.9
会 津 坂 下 町	2,074	2,070	838	1,207	25	0	25	9	0	1,217
		99.8	40.5	58.3	1.2	0.0	1.2	0.4	0.0	58.8
柳 津 町	375	375	177	196	2	0	2	0	0	198
		100.0	47.2	52.3	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	52.8
会 津 若 松 市	14,632	14,590	6,025	8,407	158	0	157	114	1	8,454
		99.7	41.3	57.6	1.1	0.0	1.1	0.8	0.0	57.9
湯 川 村	507	506	185	314	7	0	7	2	0	317
		99.8	36.6	62.1	1.4	0.0	1.4	0.4	0.0	62.6
小 計	115,009	114,787	49,923	63,834	1,030	0	1,028	711	2	64,120
		99.8	43.5	55.6	0.9	0.0	0.9	0.6	0.0	55.9
合 計	296,032	295,696	152,386	141,073	2,236	1	2,218	1,671	12	141,395
		99.9	51.5	47.7	0.8	0.0	0.8	0.6	0.0	47.8

【本格検査】

平成26年6月30日現在 単位【上段】人【下段】%

受診者 ア	結果確定数イ 進捗状況 イ/ア	イの判定区分別人数(人)				イに対する結節・のう胞の人数・割合				
		イの判定区分別割合(%)				結節(人)		のう胞(人)		
		A		B	C	結節の割合(%)		のう胞の割合(%)		
		A1	A2			5.1mm以上	5.0mm以下	20.1mm以上	20.0mm以下	
川俣町	1,276	1,124 88.1	495 44.0	623 55.4	6 0.5	0 0.0	6 0.5	8 0.7	0 0.0	625 55.6
浪江町	1,103	697 63.2	303 43.5	389 55.8	5 0.7	0 0.0	5 0.7	3 0.4	0 0.0	392 56.2
飯館村	324	129 39.8	57 44.2	69 53.5	3 2.3	0 0.0	3 2.3	1 0.8	0 0.0	69 53.5
南相馬市	4,521	2,248 49.7	890 39.6	1,346 59.9	12 0.5	0 0.0	12 0.5	14 0.6	0 0.0	1,349 60.0
伊達市	6,226	53 0.9	24 45.3	28 52.8	1 1.9	0 0.0	1 1.9	1 1.9	0 0.0	27 50.9
田村市	3,000	15 0.5	8 53.3	7 46.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 46.7
広野町	397	245 61.7	107 43.7	132 53.9	6 2.4	0 0.0	6 2.4	4 1.6	0 0.0	132 53.9
楢葉町	592	383 64.7	178 46.5	203 53.0	2 0.5	0 0.0	2 0.5	3 0.8	0 0.0	204 53.3
富岡町	905	703 77.7	298 42.4	399 56.8	6 0.9	0 0.0	6 0.9	5 0.7	0 0.0	400 56.9
川内村	110	51 46.4	15 29.4	36 70.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	36 70.6
大熊町	963	578 60.0	248 42.9	325 56.2	5 0.9	0 0.0	5 0.9	7 1.2	0 0.0	327 56.6
双葉町	283	185 65.4	87 47.0	98 53.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	98 53.0
葛尾村	60	16 26.7	10 62.5	6 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 37.5
福島市	8,363	20 0.2	11 55.0	9 45.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 45.0
二本松市	97	4 4.1	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0
本宮市	19	1 5.3	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
大玉村	6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
郡山市	90	4 4.4	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
桑折町	92	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
国見町	42	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
天栄村	2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
白河市	9	2 22.2	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
西郷村	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
三春町	39	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
平成26年度実施対象市町村計	28,524	6,458 22.6	2,737 42.4	3,675 56.9	46 0.7	0 0.0	46 0.7	46 0.7	0 0.0	3,686 57.1

平成27年度実施対象市町村

平成27年度実施対象市町村	199	4 2.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0
合計	28,723	6,462 22.5	2,738 42.4	3,678 56.9	46 0.7	0 0.0	46 0.7	46 0.7	0 0.0	3,689 57.1

資料 4

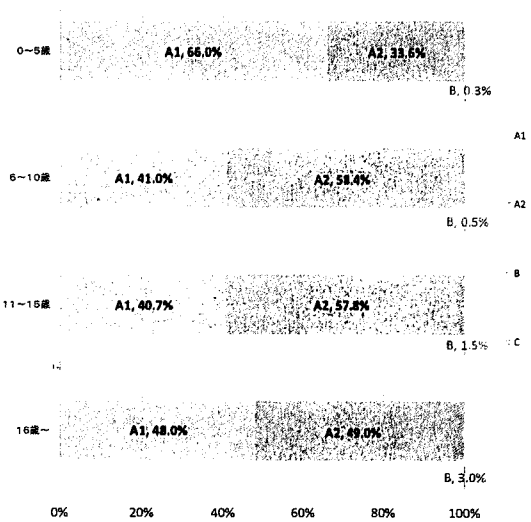
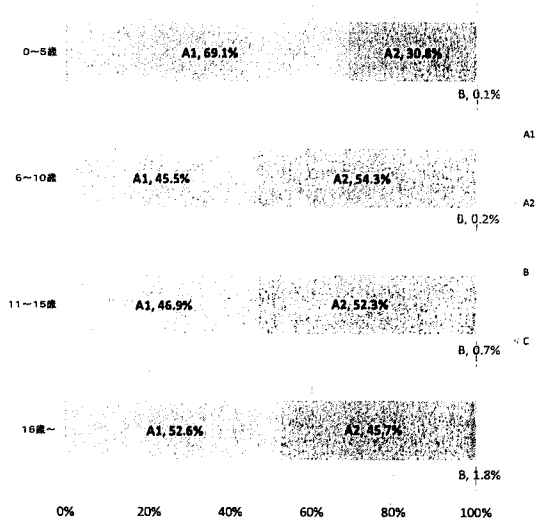
1 検査結果確定者の年齢及び性別(先行検査)

(単位 人)
平成26年6月30日現在

判定・性別 年齢区分	A						B			C			合計		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
0～5歳	31,472	28,861	60,333	14,026	14,713	28,739	65	124	189	0	0	0	45,563	43,698	89,261
6～10歳	21,369	18,261	39,630	25,486	26,064	51,550	116	235	351	0	0	0	46,971	44,560	91,531
11～15歳	19,520	16,685	36,205	21,768	23,660	45,428	306	614	920	0	0	0	41,594	40,959	82,553
16歳～18歳	7,944	8,274	16,218	6,903	8,453	15,356	264	512	776	0	1	1	15,111	17,240	32,351
合計	80,305	72,081	152,386	68,183	72,890	141,073	751	1,485	2,236	0	1	1	149,239	146,457	295,696

年齢階層別判定区分の分布【男性】

年齢階層別判定区分の分布【女性】

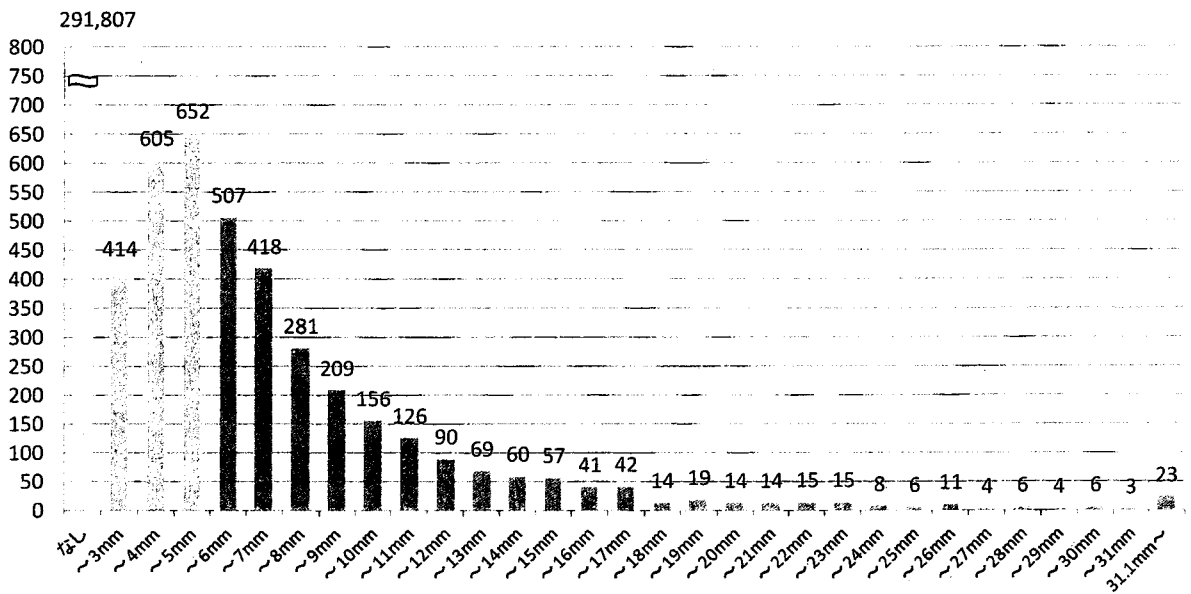
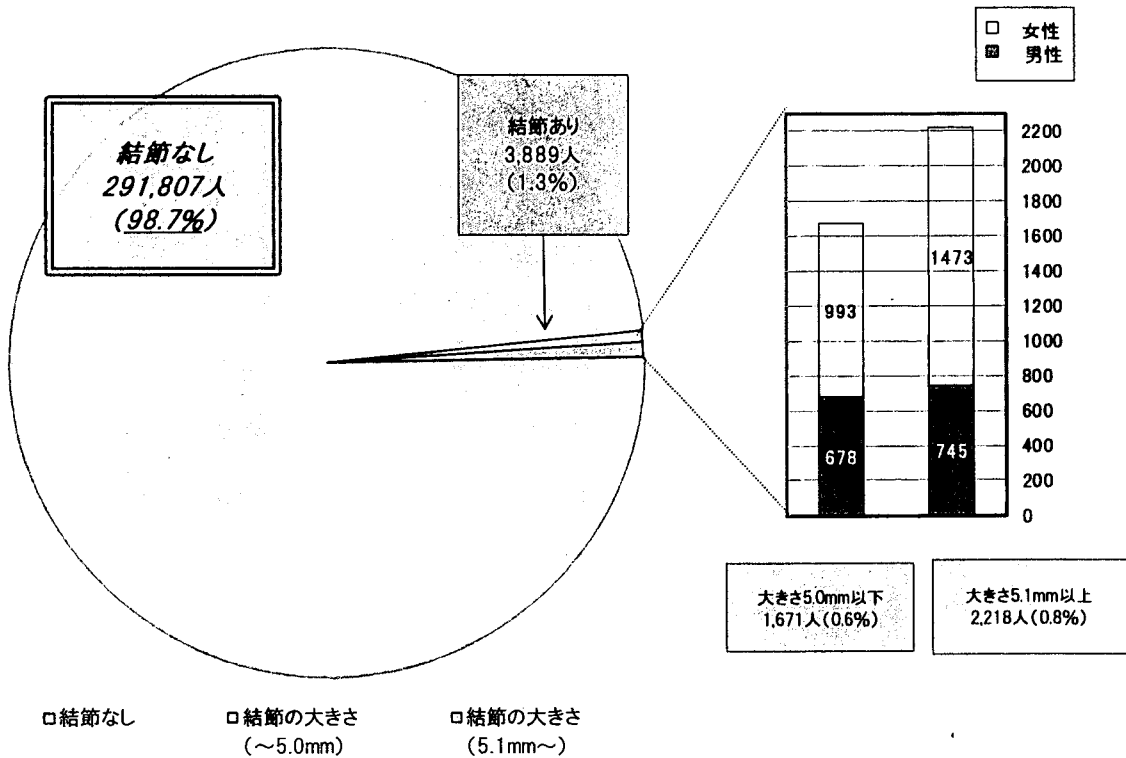


- 小数点第一位で表示されている割合のものは、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 年齢は平成 23 年 3 月 11 日時点のもの。

2 結節の有無及び大きさ(先行検査)

(単位 人)
平成26年6月30日現在

結節の有無・大きさ	全体	判定区分		割合
		男	女	
なし	291,807	147,816	143,991	A1 98.7%
～3.0mm	414	186	228	A2 0.6%
3.1～5.0mm	1,257	492	765	
5.1～10.0mm	1,571	560	1,011	B 0.8%
10.1～15.0mm	402	113	289	
15.1～20.0mm	130	39	91	
20.1～25.0mm	58	17	41	
25.1mm～	57	16	41	
計	295,696	149,239	146,457	

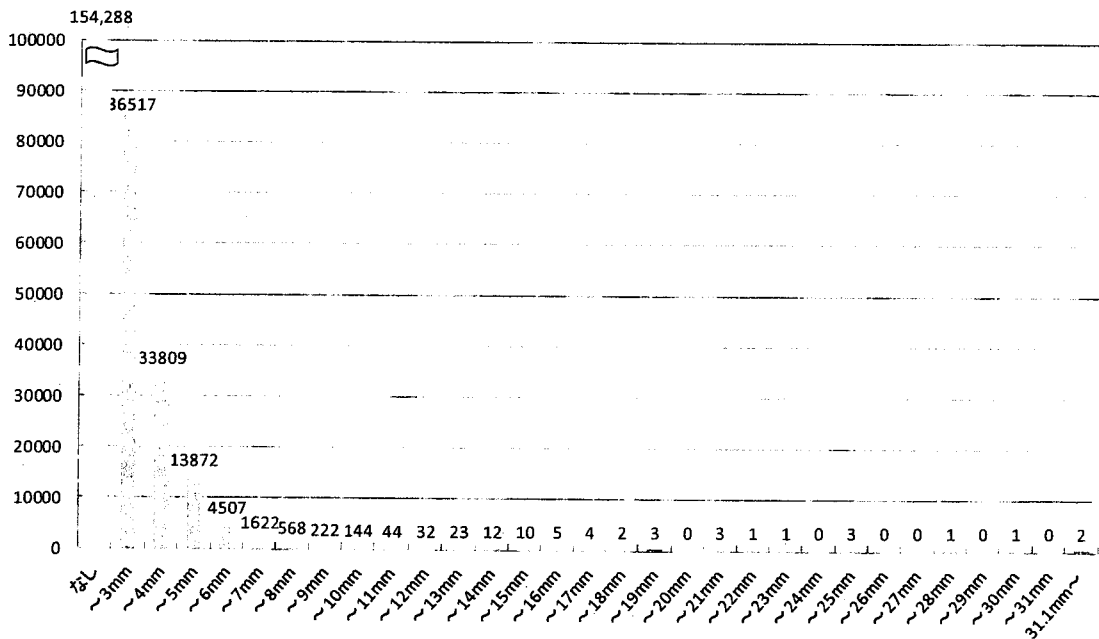
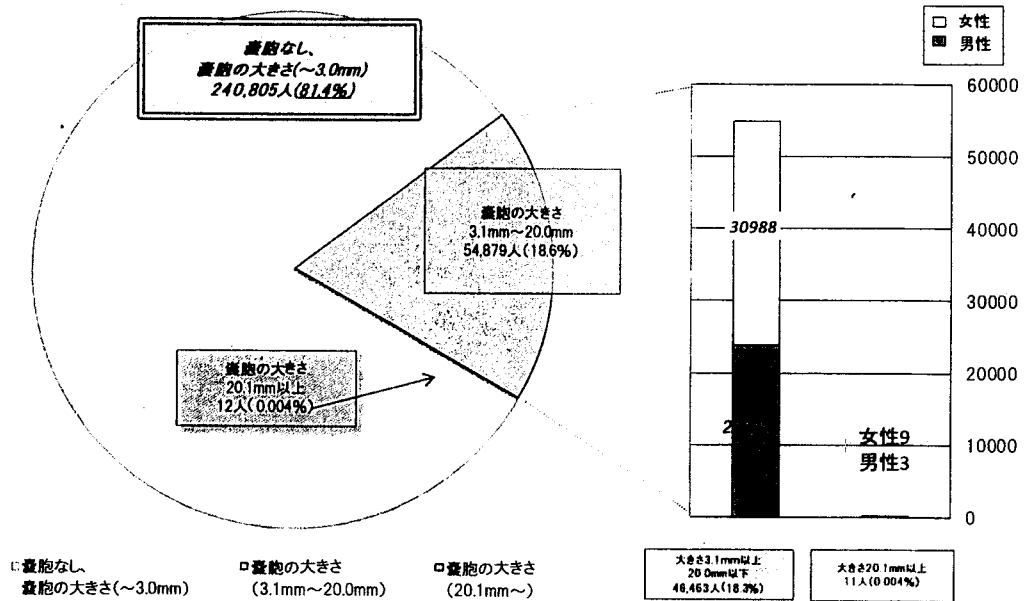


3 のう胞の有無及び大きさ

(単位 人)

平成26年6月30日現在

嚢胞の有無・大きさ	全体		判定区分	割合
	男	女		
なし	154,288	81,036	A1(52.2%)	81.4%
～3.0mm	86,517	44,309	A2(47.8%)	
3.1～5.0mm	47,681	21,342		
5.1～10.0mm	7,063	2,507		
10.1～15.0mm	121	41		
15.1～20.0mm	14	1		
20.1～25.0mm	8	1	B(0.004%)	0.004%
25.1mm～	4	2		
計	295,696	149,239		



資料5

市町村別二次検査実施状況(先行検査)

甲状腺検査(二次検査)実施状況

平成26年6月30日現在

市町村名	一次検査 受診者数 (人) ア	二次検査 対象者数 (人) イ 率 イ/ア%	計 ウ 受診率 ウ/イ%	二次検査受診者数(人)				結果確定数(人)					二次検査 実施者数 (のべ人数)
				ウのうち 0-5歳 エ 率 エ/ウ%	ウのうち 6-10歳 オ 率 オ/ウ%	ウのうち 11-15歳 カ 率 カ/ウ%	ウのうち 16-18歳 キ 率 キ/ウ%	次回検査		通常診療等 ウのうち 細胞診受診者			
								ク※2 率 ク/ウ%	ケ※3 率 ケ/ウ%	コ※3 率 コ/ウ%	サ※4 率 サ/ウ%	シ 率 シ/サ%	
平成23年度実施対象市町村													
川俣町	2,221	8 0.4	8 100.0	0 0.0	1 12.5	3 37.5	4 50.0	7 87.5	1 14.3	0 0.0	6 85.7	5 83.3	24
浪江町	3,249	26 0.8	23 88.5	1 4.3	3 13.0	7 30.4	12 52.2	23 100.0	1 4.3	4 17.4	18 78.3	12 66.7	57
飯館村	943	6 0.6	6 100.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7	3 50.0	6 100.0	0 0.0	3 50.0	3 50.0	3 100.0	16
南相馬市	10,787	52 0.5	48 92.3	6 12.5	5 10.4	16 33.3	21 43.8	48 100.0	4 8.3	11 22.9	33 68.8	19 57.6	112
伊達市	10,606	50 0.5	45 90.0	0 0.0	3 6.7	16 35.6	26 57.8	45 100.0	4 8.9	8 17.8	33 73.3	24 72.7	119
田村市	6,327	32 0.5	27 84.4	1 3.7	3 11.1	14 51.9	9 33.3	26 96.3	0 0.0	4 15.4	22 84.6	14 63.6	66
広野町	838	5 0.6	4 80.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	3 75.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	7
楢葉町	1,153	7 0.6	6 85.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	4 66.7	5 83.3	0 0.0	2 40.0	3 60.0	1 33.3	12
富岡町	2,302	13 0.6	12 92.3	0 0.0	1 8.3	5 41.7	6 50.0	12 100.0	0 0.0	2 16.7	10 83.3	7 70.0	29
川内村	280	4 1.4	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	3 75.0	4 100.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0	2 66.7	11
大熊町	1,973	14 0.7	12 85.7	1 8.3	1 8.3	5 41.7	5 41.7	12 100.0	1 8.3	4 33.3	7 58.3	2 28.6	27
双葉町	949	3 0.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 100.0	2 100.0	2 100.0	4
葛尾村	183	1 0.5	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	2
23年度計	41,811	221 0.5	198 89.6	10 5.1	22 11.1	70 35.4	96 48.5	194 98.0	12 6.2	42 21.6	140 72.2	91 65.0	486
平成24年度県内実施対象市町村													
福島市	47,339	283 0.6	266 94.0	5 1.9	28 10.5	106 39.8	127 47.7	258 97.0	12 4.7	65 25.2	181 70.2	91 50.3	648
二本松市	8,846	55 0.6	52 94.5	0 0.0	5 9.6	26 50.0	21 40.4	50 96.2	2 4.0	7 14.0	41 82.0	24 58.5	131
本宮市	5,233	29 0.6	28 96.6	1 3.6	3 10.7	14 50.0	10 35.7	26 92.9	0 0.0	8 30.8	18 69.2	7 38.9	64
大玉村	1,372	7 0.5	7 100.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	3 42.9	7 100.0	0 0.0	1 14.3	6 85.7	4 66.7	18
郡山市	53,964	458 0.8	416 90.8	17 4.1	64 15.4	179 43.0	156 37.5	401 96.4	23 5.7	121 30.2	257 64.1	100 38.9	925
桑折町	1,857	14 0.8	11 78.6	1 9.1	2 18.2	3 27.3	5 45.5	11 100.0	0 0.0	2 18.2	9 81.8	2 22.2	24
国見町	1,429	15 1.0	13 86.7	2 15.4	2 15.4	2 15.4	7 53.8	13 100.0	1 7.7	2 15.4	10 76.9	4 40.0	36
天栄村	878	7 0.8	6 85.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3	6 100.0	1 16.7	2 33.3	3 50.0	0 0.0	15
白河市	10,805	61 0.6	60 98.4	2 3.3	10 16.7	28 46.7	20 33.3	60 100.0	6 10.0	14 23.3	40 66.7	15 37.5	167
西郷村	3,618	30 0.8	26 86.7	2 7.7	6 23.1	9 34.6	9 34.6	26 100.0	2 7.7	8 30.8	16 61.5	5 31.3	61
泉崎村	1,156	5 0.4	5 100.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	3 60.0	5 100.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	1 50.0	14
三春町	2,715	22 0.8	17 77.3	0 0.0	1 5.9	8 47.1	8 47.1	17 100.0	4 23.5	3 17.6	10 58.8	4 40.0	37
24年度計	139,212	986 0.7	907 92.0	31 3.4	125 13.8	380 41.9	371 40.9	880 97.0	52 5.9	235 26.7	593 67.4	257 43.3	2,140

- ※1 クには血液検査、尿検査及び細胞診実施者のうち、検査結果を通知していない対象者は含まない。
- ※2 ケ及びコは平成26年4月以降の本格検査において検査を実施する受診対象者。
- ※3 サは通常の保険診療枠として概ね6か月後または1年後に再診する受診対象者。
- 小数点第一位で表示されている割合のものは、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 年齢は平成23年3月11日時点のもの。
- 対象者のうち、在籍している学校で検査を受診した方などについては一部、学校等の所在市町村に含め、集計していたが、そのような対象者については、今回、震災時市町村に再集計した。

甲状腺検査(二次検査)実施状況

平成26年6月30日現在

市町村名	一次検査 受診者数 (人) ア	二次検査 対象者数 (人) イ 率 イ/ア%	計 ウ 受診率 ウ/イ%	二次検査受診者数(人)				結果確定数(人)					二次検査 実施者数 (のべ人数)	
				ウのうち 0-5歳 エ 率 エ/ウ%	ウのうち 6-10歳 オ 率 オ/ウ%	ウのうち 11-15歳 カ 率 カ/ウ%	ウのうち 16-18歳 キ 率 キ/ウ%	計 ク 率 ク/ウ%	次回検査		通常診療等 ののうち 細胞診受診者			シ 率 シ/ウ%
									A1 ケ 率 ケ/ク%	A2 コ 率 コ/ク%	サ 率 サ/ウ%	リ 率 リ/ウ%		
									ク※2 率 ク/ウ%	ケ※3 率 ケ/ウ%	コ※3 率 コ/ウ%	サ※4 率 サ/ウ%		

平成25年度県内実施対象市町村

いわき市	47,759	429 0.9	363 84.6	20 5.5	55 15.2	186 51.2	102 28.1	352 97.0	18 5.1	114 32.4	220 62.5	73 33.2	793
須賀川市	11,532	101 0.9	82 81.2	6 7.3	16 19.5	41 50.0	19 23.2	80 97.6	7 8.8	29 36.3	44 55.0	10 22.7	177
相馬市	5,046	46 0.9	41 89.1	3 7.3	9 22.0	19 46.3	10 24.4	39 95.1	3 7.7	15 38.5	21 53.8	6 28.6	87
鏡石町	1,947	9 0.5	6 66.7	0 0.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0	6 100.0	0 0.0	0 0.0	6 100.0	1 16.7	13
新地町	1,105	7 0.6	7 100.0	0 0.0	3 42.9	3 42.9	1 14.3	6 85.7	0 0.0	0 0.0	6 100.0	3 50.0	16
中島村	801	2 0.2	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	4
矢吹町	2,453	17 0.7	10 58.8	0 0.0	2 20.0	6 60.0	2 20.0	9 90.0	0 0.0	3 33.3	6 66.7	1 16.7	20
石川町	2,080	11 0.5	10 90.9	0 0.0	4 40.0	4 40.0	2 20.0	10 100.0	0 0.0	1 10.0	9 90.0	5 55.6	26
矢祭町	774	3 0.4	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	4
浅川町	1,067	12 1.1	10 83.3	1 10.0	1 10.0	5 50.0	3 30.0	10 100.0	0 0.0	2 20.0	8 80.0	2 25.0	22
平田村	824	9 1.1	7 77.8	0 0.0	4 57.1	2 28.6	1 14.3	6 85.7	1 16.7	1 16.7	4 66.7	1 25.0	16
棚倉町	2,260	22 1.0	22 100.0	2 9.1	5 22.7	9 40.9	6 27.3	19 86.4	2 10.5	2 10.5	15 78.9	5 33.3	49
塩町	1,210	8 0.7	6 75.0	0 0.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	4 66.7	0 0.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	12
鮎川村	503	3 0.6	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	2
小野町	1,315	14 1.1	12 85.7	1 8.3	1 8.3	6 50.0	4 33.3	11 91.7	0 0.0	4 36.4	7 63.6	0 0.0	23
玉川村	983	10 1.0	8 80.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	3 37.5	8 100.0	0 0.0	2 25.0	6 75.0	1 16.7	19
古殿町	791	6 0.8	6 100.0	0 0.0	1 16.7	4 66.7	1 16.7	6 100.0	0 0.0	2 33.3	4 66.7	1 25.0	13
檜枝岐村	61	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
南会津町	1,803	16 0.9	14 87.5	0 0.0	6 42.9	7 50.0	1 7.1	11 78.6	1 9.1	2 18.2	8 72.7	2 25.0	27
金山町	136	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
昭和村	101	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
三島町	129	1 0.8	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1
下郷町	699	10 1.4	8 80.0	0 0.0	1 12.5	5 62.5	2 25.0	6 75.0	0 0.0	3 50.0	3 50.0	1 33.3	16
喜多方市	5,699	46 0.8	35 76.1	1 2.9	11 31.4	14 40.0	9 25.7	30 85.7	2 6.7	6 20.0	22 73.3	7 31.8	74
西会津町	638	5 0.8	4 80.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	6
只見町	492	7 1.4	6 85.7	0 0.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0	6 100.0	0 0.0	2 33.3	4 66.7	1 25.0	13
猪苗代町	1,871	13 0.7	10 76.9	1 10.0	1 10.0	6 60.0	2 20.0	8 80.0	2 25.0	3 37.5	3 37.5	0 0.0	19
磐梯町	413	4 1.0	3 75.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	3 100.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	6
北塩原村	382	1 0.3	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	2
会津美里町	2,547	26 1.0	19 73.1	0 0.0	3 15.8	10 52.6	6 31.6	16 84.2	1 6.3	7 43.8	8 50.0	1 12.5	38
会津坂下町	2,074	25 1.2	21 84.0	3 14.3	4 19.0	8 38.1	6 28.6	17 81.0	0 0.0	3 17.6	14 82.4	2 14.3	41
柳津町	375	2 0.5	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	3
会津若松市	14,632	158 1.1	122 77.2	5 4.1	29 23.8	67 54.9	21 17.2	98 80.3	7 7.1	33 33.7	58 59.2	12 20.7	237
湯川村	507	7 1.4	5 71.4	0 0.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	1 25.0	10
25年度計	115,009	1,030 0.9	846 82.1	46 5.4	170 20.1	420 49.6	210 24.8	774 91.5	45 5.8	237 30.6	492 63.6	137 27.8	1,789

平成23~25年度実施対象市町村合計

合計	296,032	2,237 0.8	1,951 87.2	87 4.5	317 16.2	870 44.6	677 34.7	1,848 94.7	109 5.9	514 27.8	1,225 66.3	485 39.6	4,415
----	---------	--------------	---------------	-----------	-------------	-------------	-------------	---------------	------------	-------------	---------------	-------------	-------

議題2
※ 取扱注意

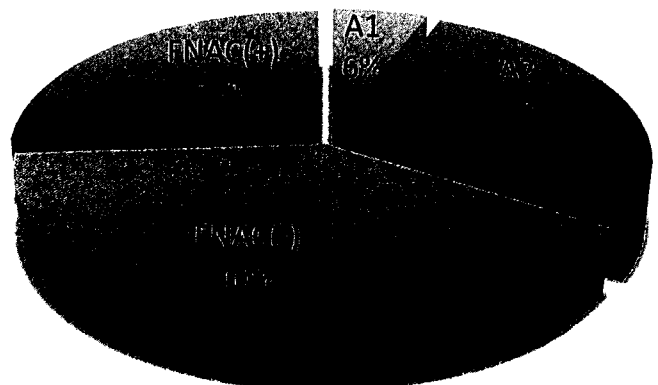
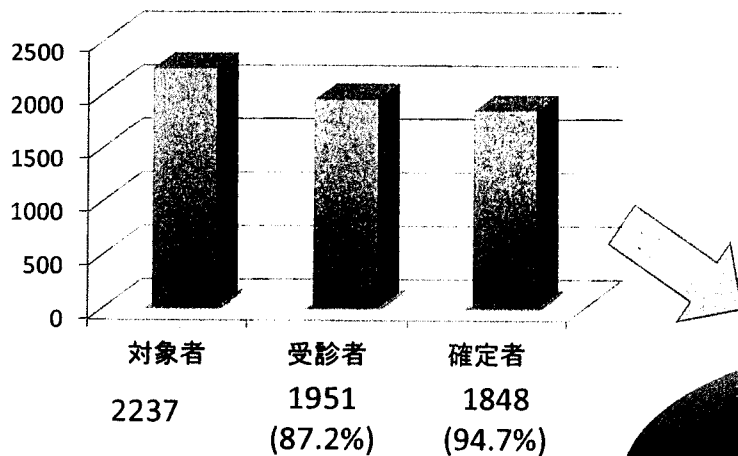
甲状腺癌症例について

福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
甲状腺検査部門

鈴木真一

二次検査結果

2012年3月～2014年6月30日



一次検査	
対象者	367,761
受診者	296,032 (80.5)
結果確定者	295,696 (99.9)

ア 平成 23 年度実施対象市町村

- ・悪性ないし悪性疑い 15 人 (手術 13 人 : 良性結節 1 人、乳頭癌 11 人、低分化癌 1 人)
- ・男性 : 女性 5 人 : 10 人
- ・平均年齢 17.3 ± 2.0 歳 (13-20 歳)、震災当時 15.7 ± 1.9 歳 (11-18 歳)
- ・平均腫瘍径 14.1 ± 6.6 mm (6.0-33.0 mm)

イ 平成 24 年度実施対象市町村

- ・悪性ないし悪性疑い 54 人 (手術 41 人 : 乳頭癌 41 人)
- ・男性 : 女性 21 人 : 33 人
- ・平均年齢 17.2 ± 2.7 歳 (8-21 歳)、震災当時 14.9 ± 2.6 歳 (6-18 歳)
- ・平均腫瘍径 14.5 ± 7.9 mm (5.2-40.5 mm)

ウ 平成 25 年度実施対象市町村

- ・悪性ないし悪性疑い 35 人 (手術 4 人 : 乳頭癌 3 人、低分化癌 1 人)
- ・男性 : 女性 10 人 : 25 人
- ・平均年齢 16.9 ± 3.0 歳 (11-21 歳)、震災当時 14.2 ± 2.9 歳 (8-18 歳)
- ・平均腫瘍径 13.7 ± 7.2 mm (5.1-35.9 mm)

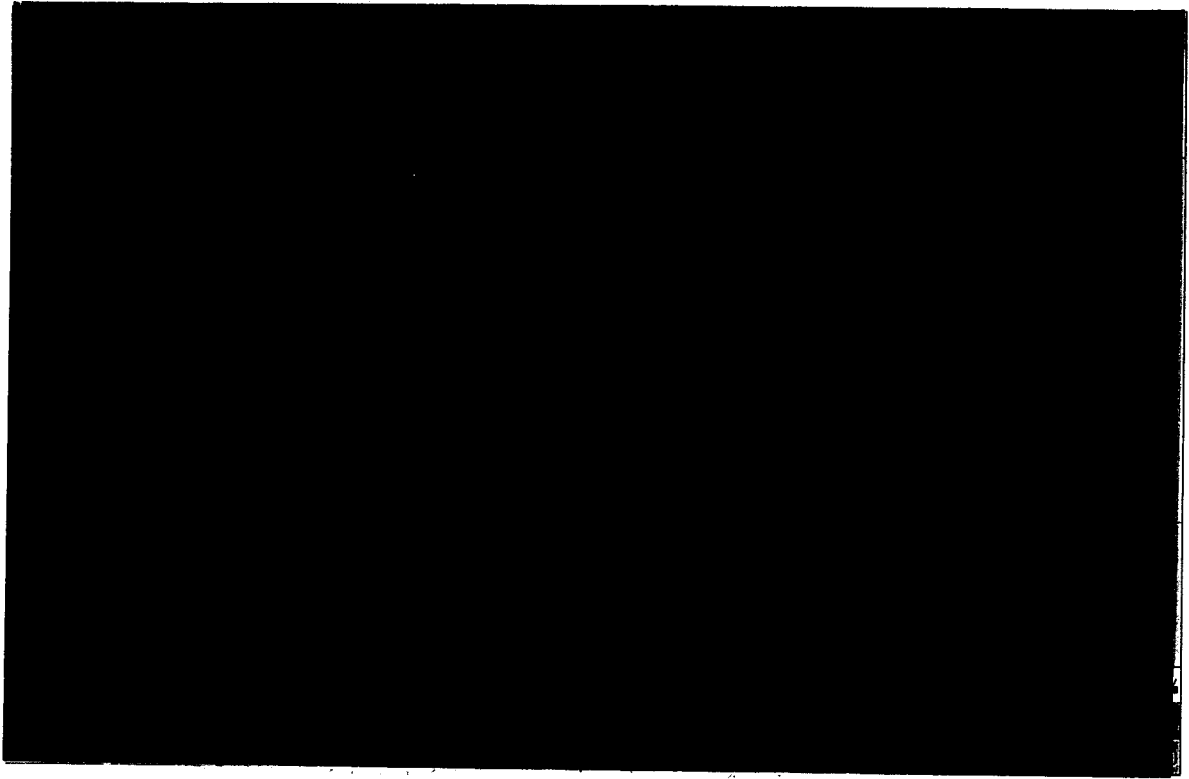
平成 23-25 年度合計

- ・悪性ないし悪性疑い 104 人
(手術 58 人 : 良性結節 1 人、乳頭癌 55 人、低分化癌 2 人)
- ・男性 : 女性 36 人 : 68 人
- ・平均年齢 17.1 ± 2.7 歳 (8-21 歳)、震災当時 14.8 ± 2.6 歳 (6-18 歳)
- ・平均腫瘍径 14.2 ± 7.5 mm (5.1-40.5 mm)

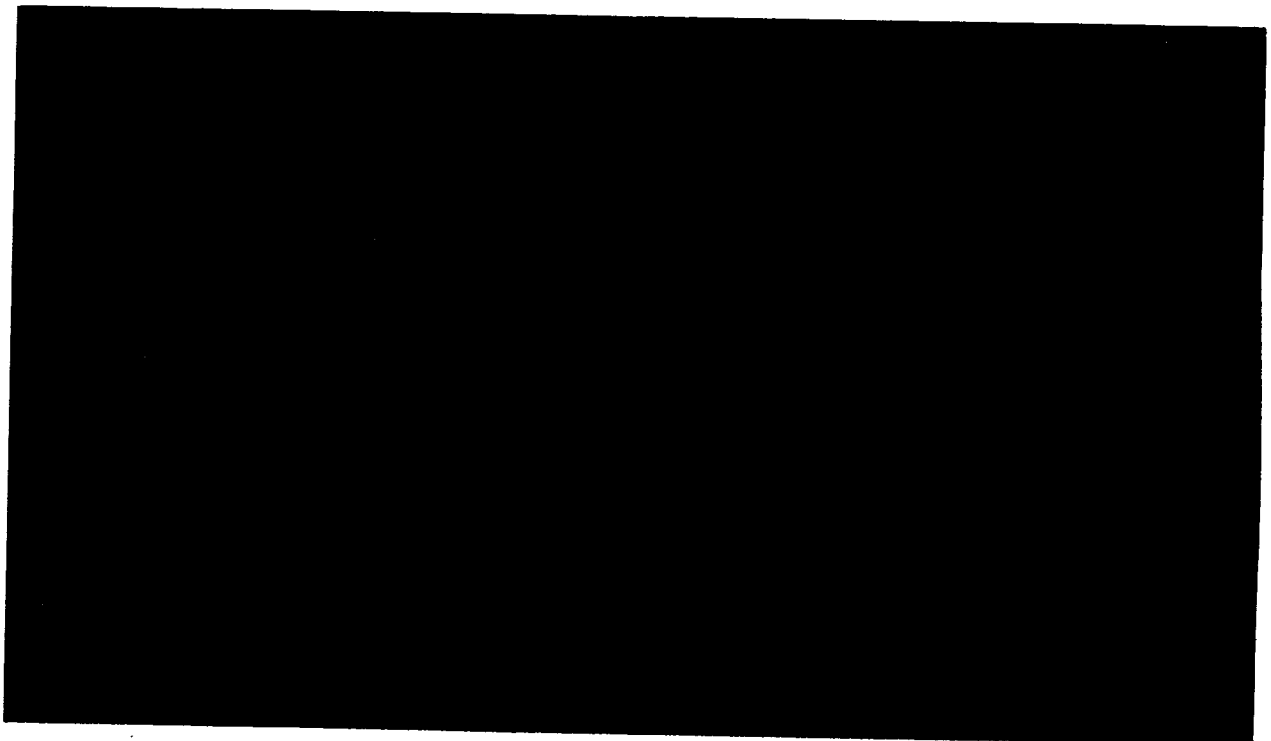
平成24年3月22日～平成25年9月30日 細胞診判定 279件



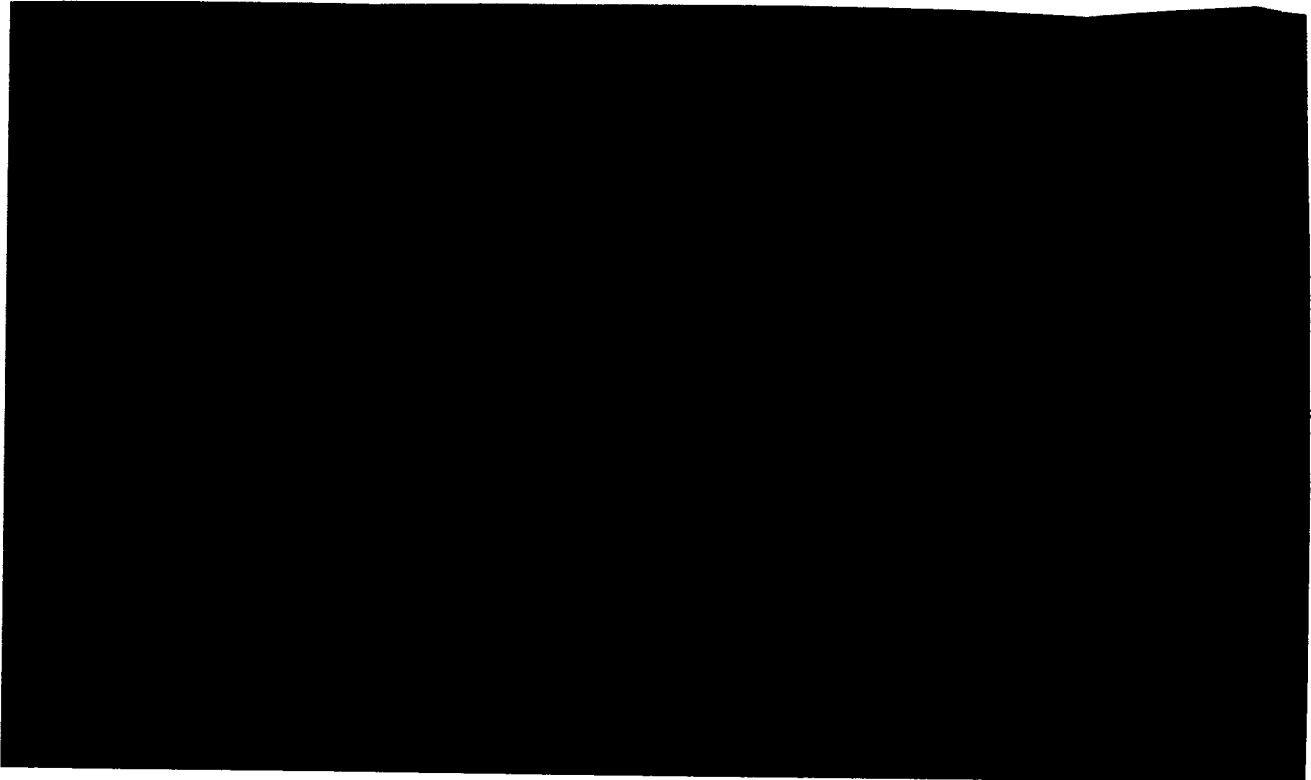
平成24年3月22日～平成25年12月31日 細胞診判定 397件



平成24年3月22日～平成26年3月31日 443例



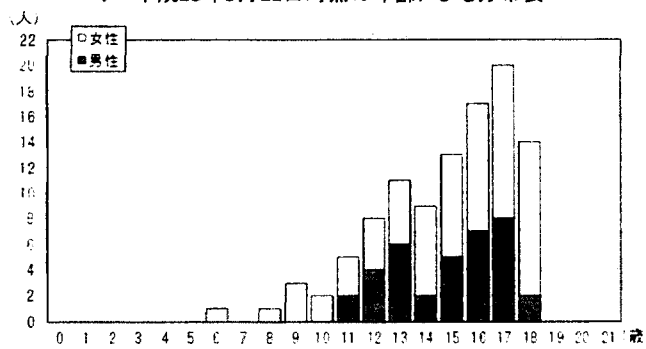
平成24年3月22日～平成26年6月30日 509例



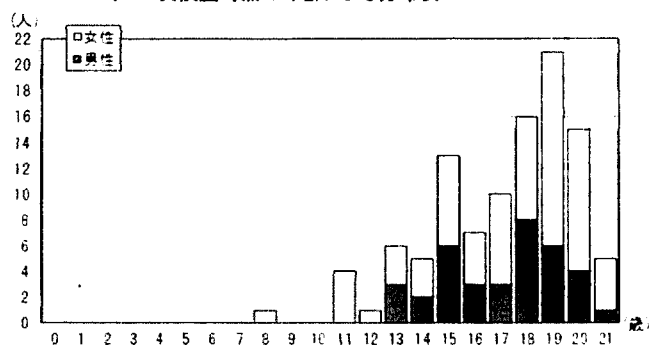
細胞診で悪性ないし悪性疑いであったの年齢、性分布

104例(平成26年6月30日現在)

ア 平成23年3月11日時点の年齢による分布表



イ 二次検査時点の年齢による分布表



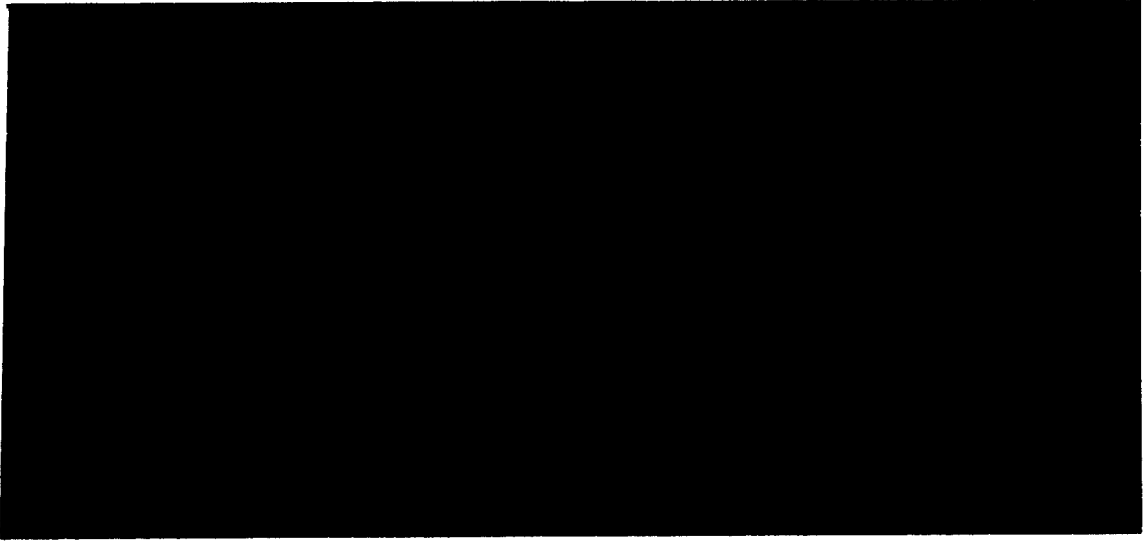
手術症例

- 2014年6月30日現在 58例
 - 福島医大 55例
(良性1、癌54)
 - 他施設 3例
-

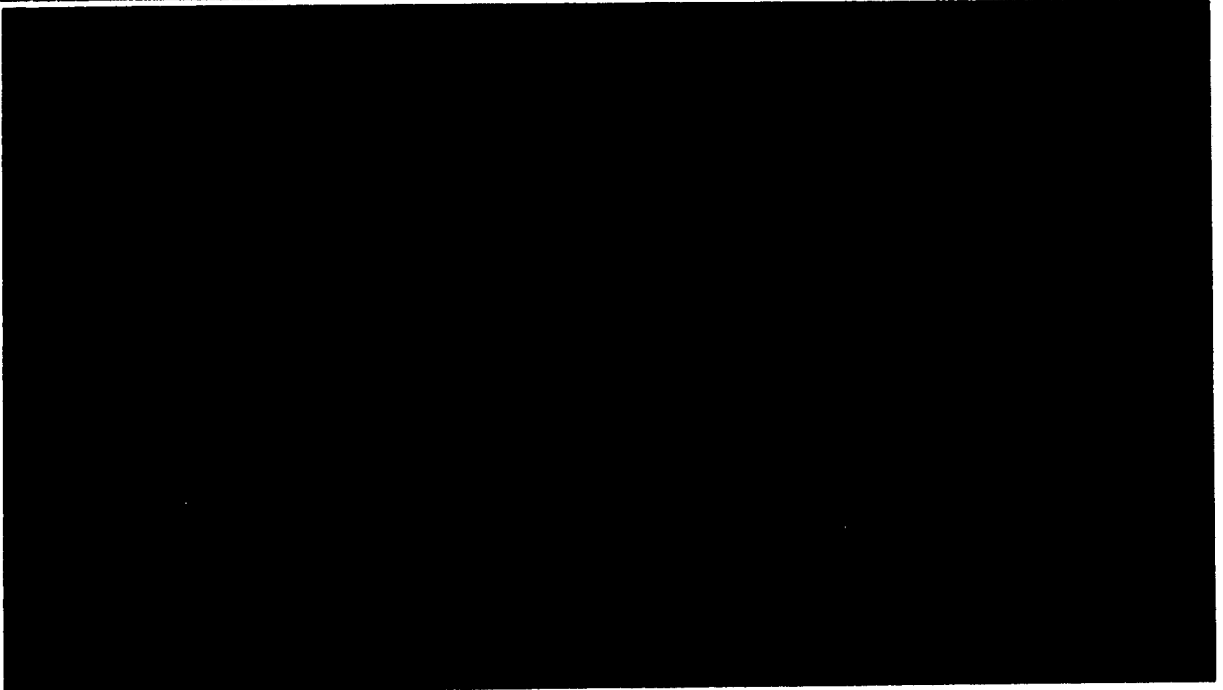
福島医大手術54例(悪性のみ)



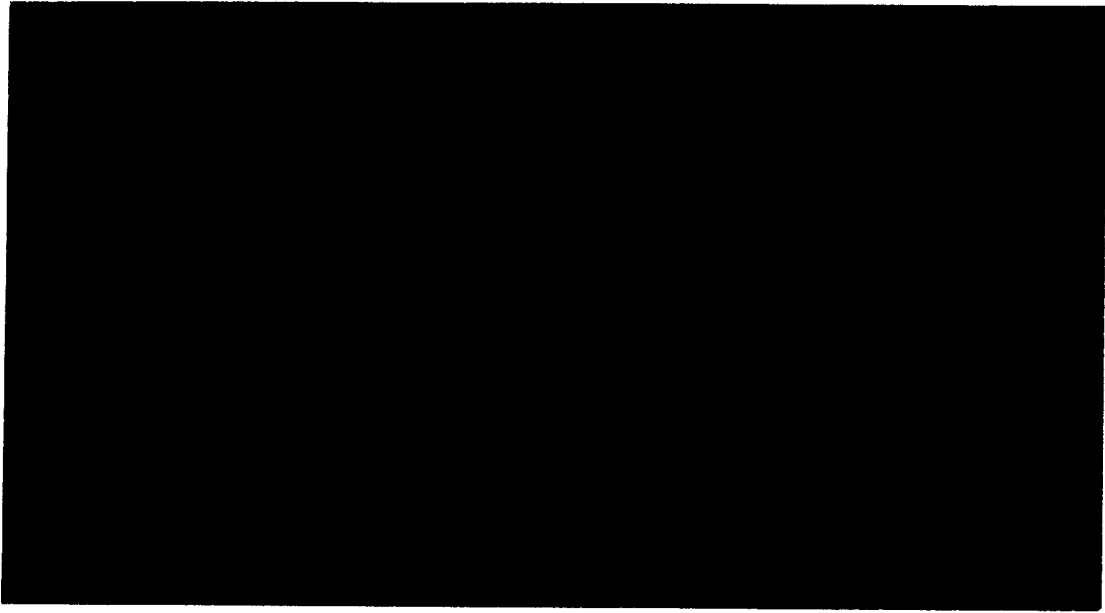
病理組織型



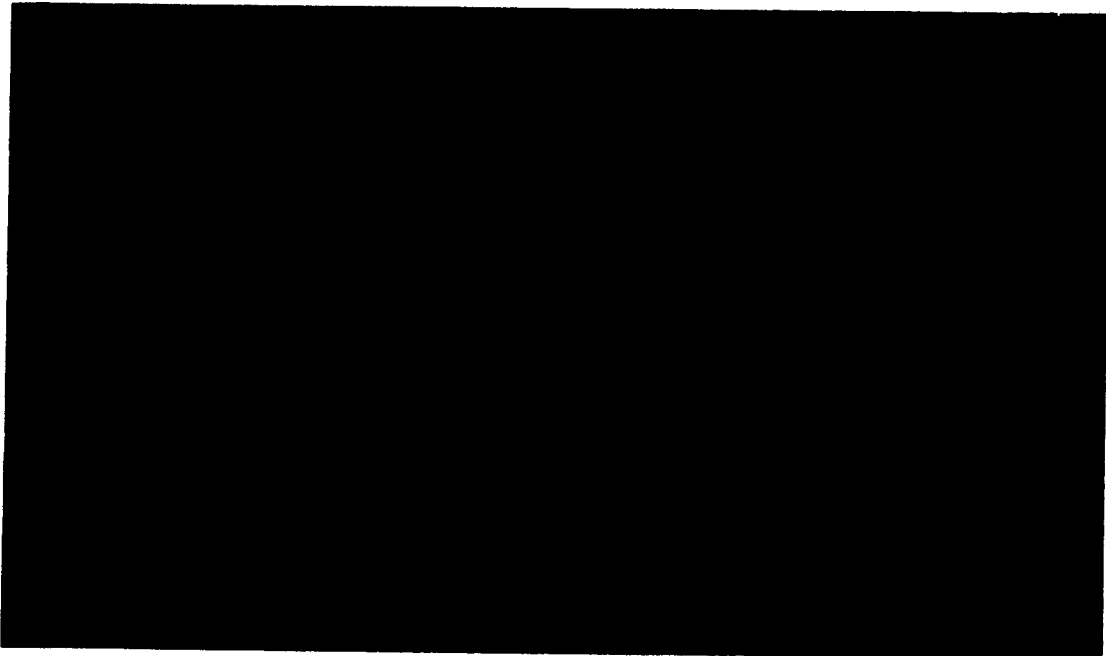
術前



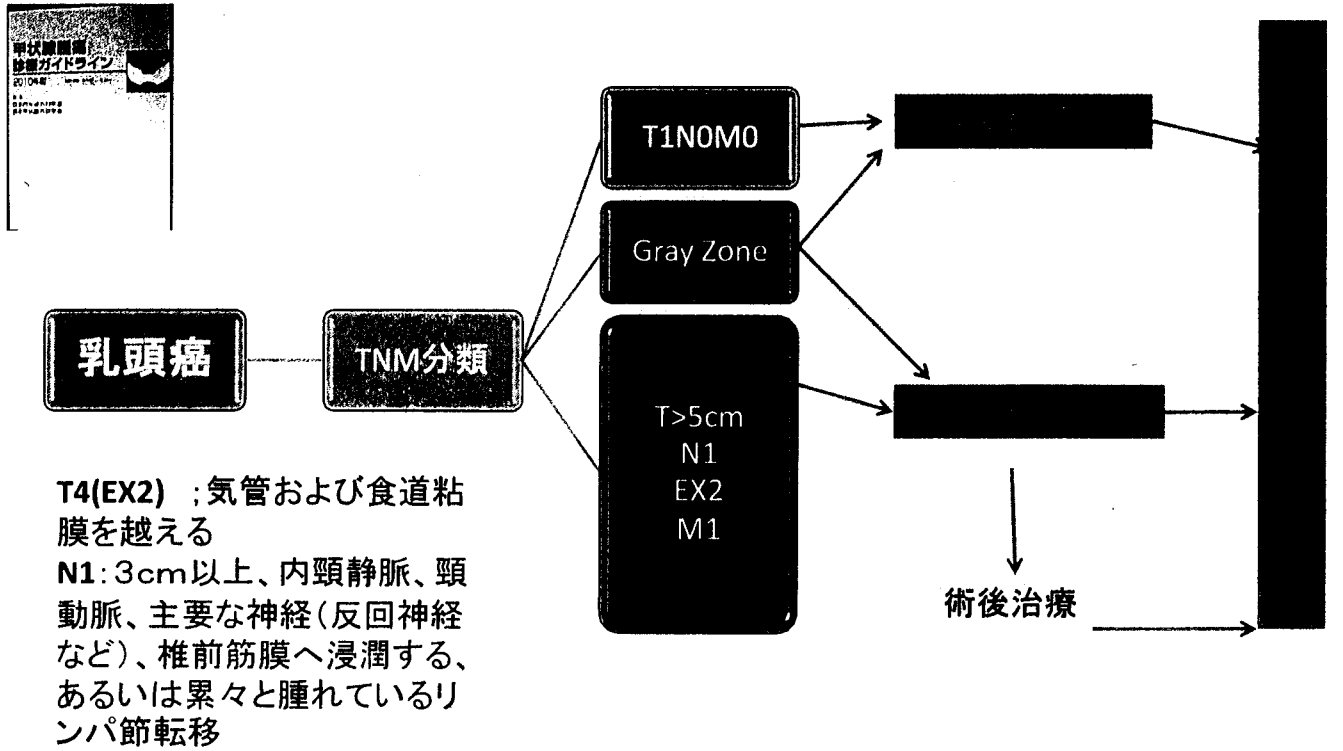
術式



術後



甲状腺乳頭癌の診断フローチャート



資料4 術前微小癌が想定された症例の手術適応の理由



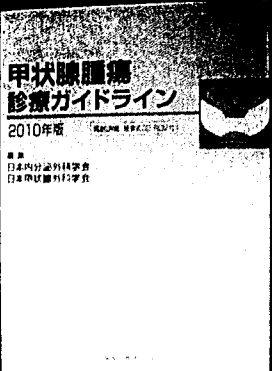
C_Q20

推奨グレード

C1

術前診断(触診・頸部超音波検査など)により明かなり

リンパ節転移や遠隔転移、甲状腺外浸潤を伴う微小乳頭癌は絶対的手術適応であり、経過観察は勧められない。これらの浸潤の徴候のない患者が、十分な説明と同意のもと非手術経過観察を望んだ場合、その対象となり



気管近接、反回神経近傍
被膜近接、リンパ節転移疑い



FNACやOP勧める

資料3

甲状腺超音波診断
ガイドブック

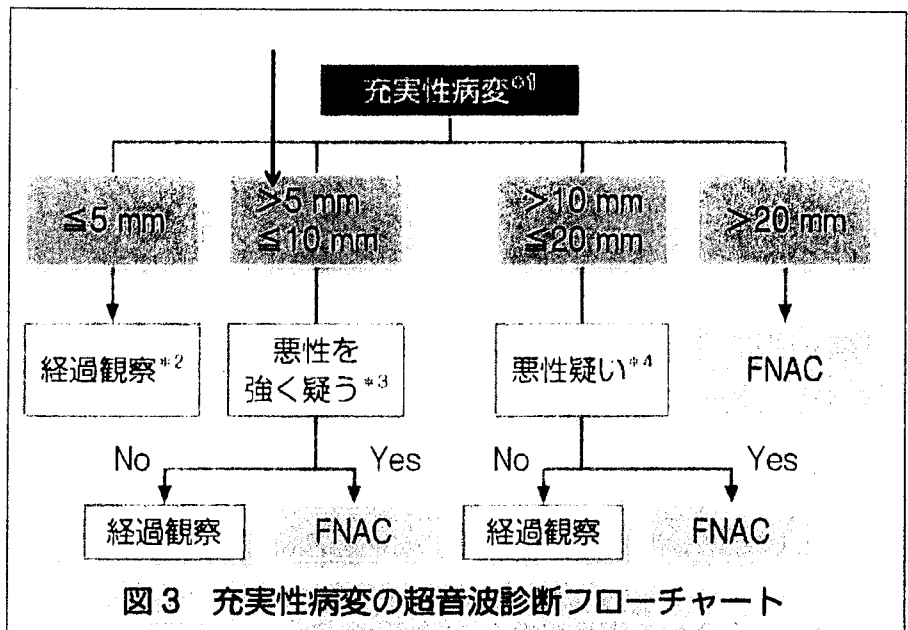
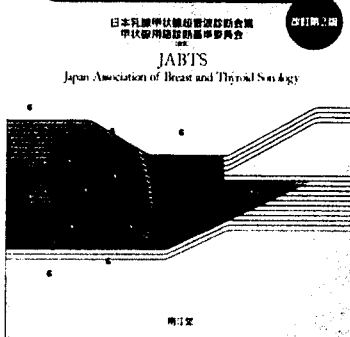


図3 充実性病変の超音波診断フローチャート

表2 甲状腺結節(腫瘍)超音波診断基準

	＜全＞				＜副＞	
	形状	境界の明瞭性・性状	内部エコー(高/低)	均質性	微細高エコー	境界部低エコー帯
良性所見	整	明瞭平滑	高～低	均質	(-)	整
悪性所見	不整	不明瞭粗雑	低	不均質	多発	不整/無し

*1: 多発性結節に関しては、個々の結節に対し、嚢胞、充実性病変の基準に従う。しかし、spongiform patternやhoneycomb patternを呈するいわゆる過形成結節(腺腫様結節、腺腫様甲状腺腫)は、超音波のみで経過観察する。
 *2: 頸部リンパ節転移や遠隔転移が疑われた場合やCEA、カルシトニンが高値であった場合には穿刺する
 *3: 甲状腺結節超音波診断基準に照らし合わせて、悪性を強く疑う場合
 *4: 甲状腺結節超音波診断基準に照らし合わせて、いずれかの所見が悪性であった場合やドプラモードで結節内への血流(貫通血管)を認めた場合

二次検査
穿刺吸引細胞診

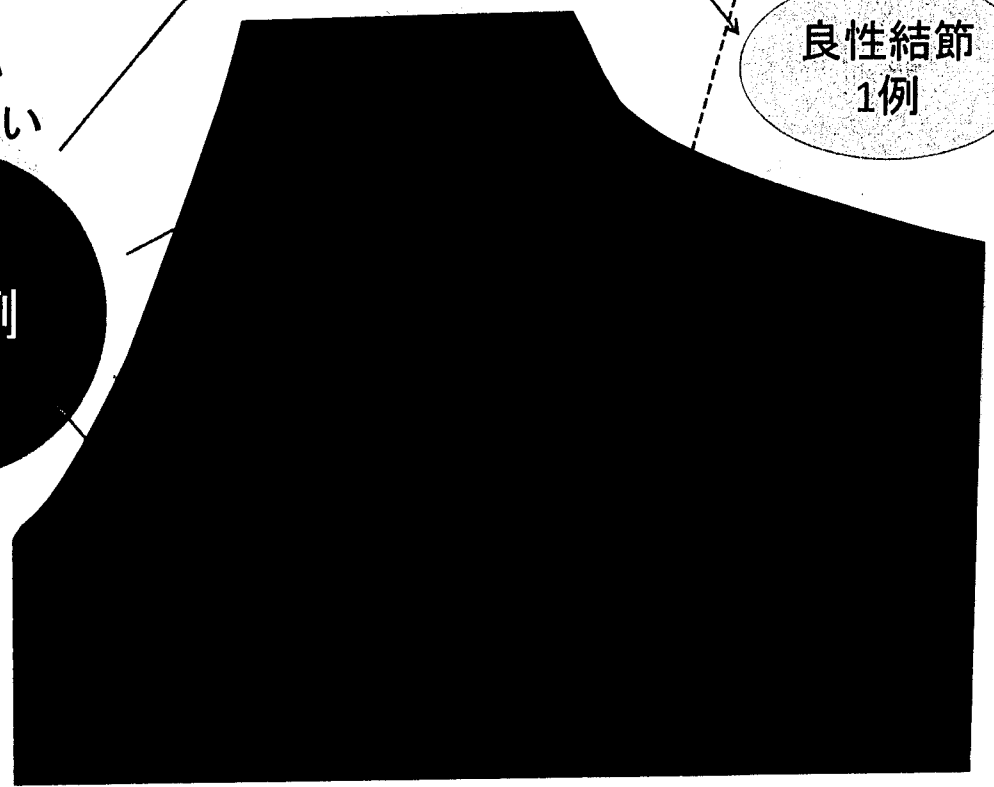
悪性ない
し悪性疑い

104例

手術施行
58例

甲状腺癌
57例

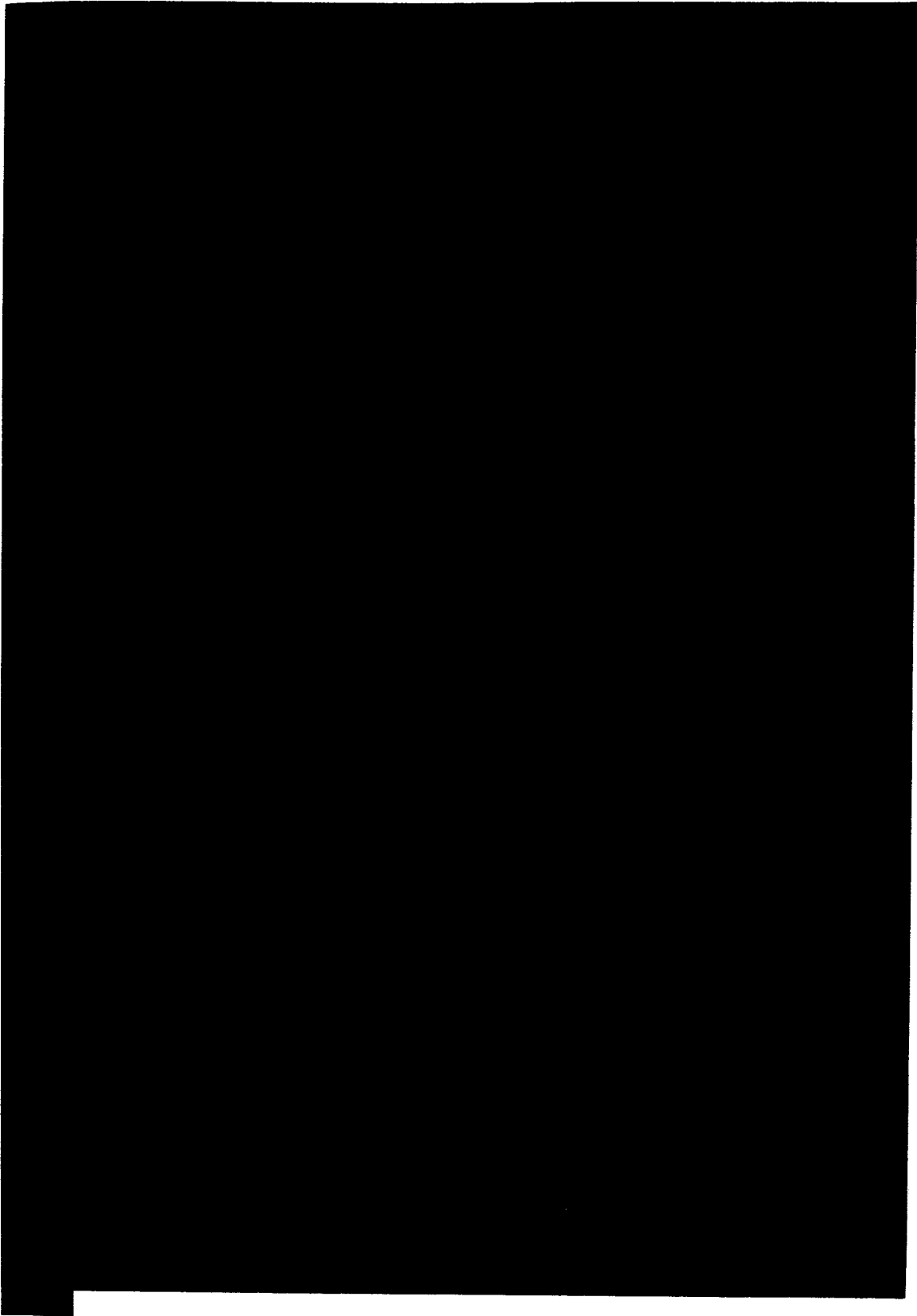
良性結節
1例



議題 3

※資料回収


甲状腺結節、甲状腺がんの地域差についての解析結果 ver3



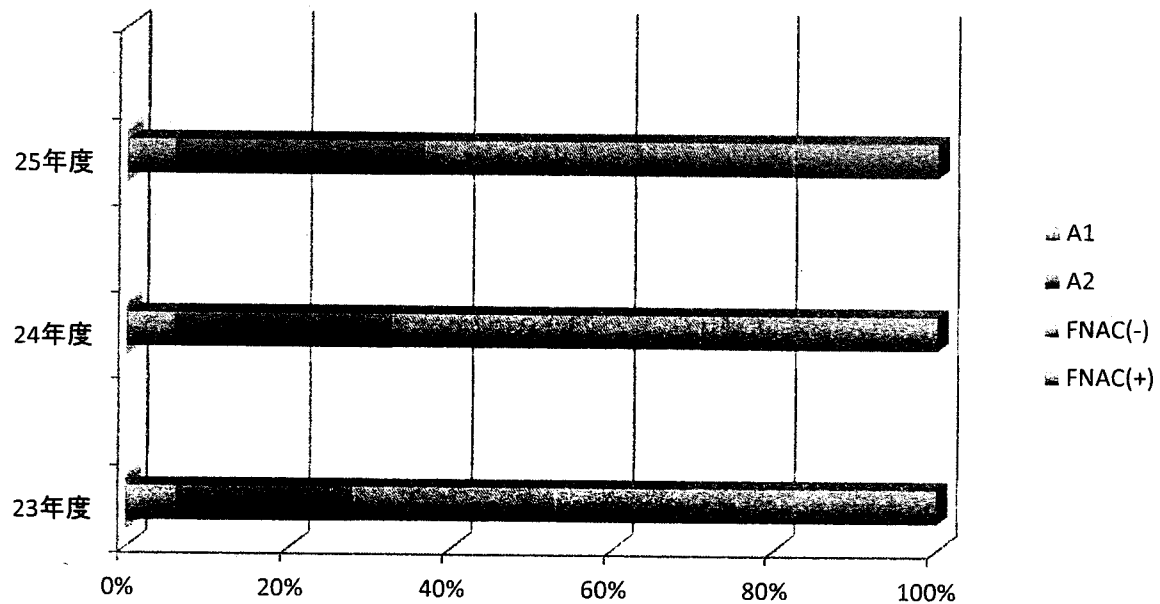
議題4

※取扱注意

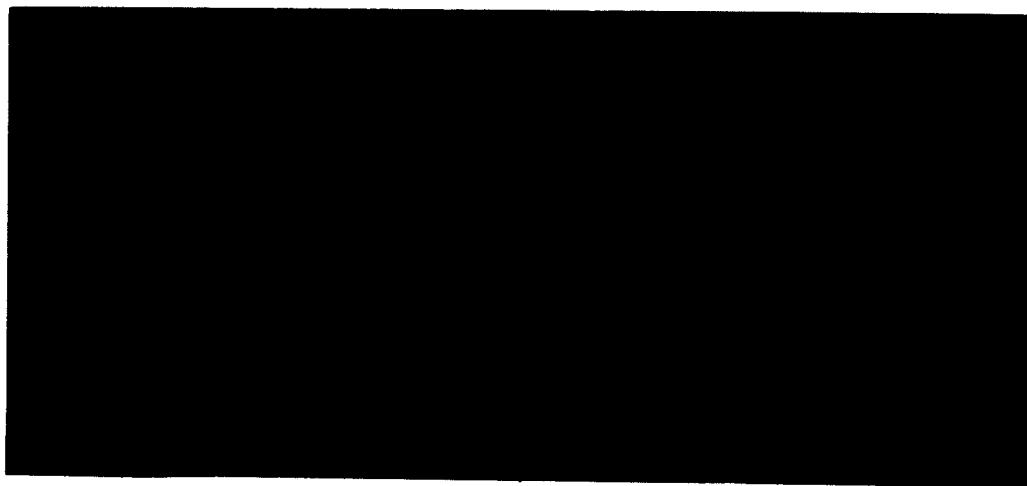
細胞診施行率について



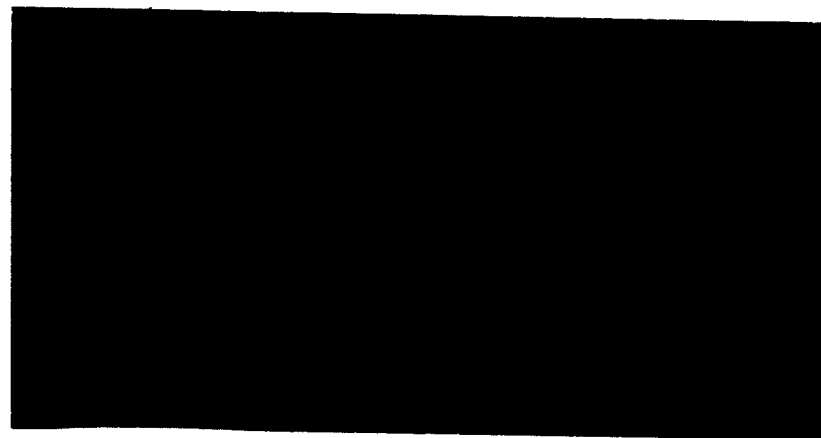
23年度	41811	14	0.033
24年度	139212	54	0.039
25年度	115009	35	0.030



二次検査の年度別推移



二次検査例における悪性ないし悪性疑いの頻度
(A1, A2再判定例を除く)



年度別細胞診施行例における
悪性ないし悪性疑いの頻度

甲状腺がんで過剰治療？

東京電力福島第一原発事故の健康への影響を調べる県の調査で、甲状腺がんと診断され手術を受けた子どもがこれまで50人になる。「事故の影響は考えにくい」との見方が大勢だが、甲状腺がんは進行が遅いため専門家から「不必要な手術もあったのではないか」と過剰治療を懸念する声が上がりが始めた。

県の甲状腺検査
(事故当時18歳以下、5月19日公表)

調査対象者	約37万人
↓	
1次検査受診者	約29万6000人
↓	
2次検査	
↓	
がんまたはがんの疑い	90人
↓	
手術	51人
↓	
良性のしこり	1人

県の子どもも対象調査

■心の傷

「手術した子どもは体だけでなく心の傷も負う」。福島市で6月上旬に開かれた甲状腺検査に関する県の評価部会で、メンバーの渋谷健司東京大教授(公衆衛生学)が検査を担当する福島医大の姿勢を批判した。甲状腺は成長に関わるホルモンを分泌する組織で、原発事故で出た放射性ヨウ素が甲状腺にたまるのがん

専門家から懸念の声

を引き起こすとされる。子どもへの影響が大きく、1986年のチェルノブイリ原発事故では、周辺で子どももの甲状腺がんが急増した。

■国外でも

県は震災当時18歳以下の県内の子ども約37万人を対象に甲状腺を検査し、5月までにがんと診断された人は50人、がんの疑いは39人になる。甲状腺がんは一般的に手術後の経過が良く死亡する

を否定する。

一方、国内外で検査機器の精度向上に伴い、検診してもがんの死亡率が下がらないケースが報告されている。米国では前立腺がんの早期発見に有効とされるPSA(前立腺特異抗原)検診が普及した90年代初頭に前立腺がん患者が急増したが、死亡率に大きな変化はなく米政府の作業部会は2002年、治療による不利益の方が大きいと判断。特別な場合を除きPSA検診をしないよう勧告した。

韓国では00年以降、女性の甲状腺がんが急増。超音波検診の普及による過剰診断と指摘されている。この専門家会議。委員の祖父江友幸大阪大教授(環境医学)は、甲状腺がんのように進行が遅いがんは症状が出る前に寿命を迎えるケースが多く、過剰診断や過剰治療につながるやむを得ない指摘。一方で、対象が子ども

の福島県検査は「一般論をそのまま適用できない」とも述べた。ほかの委員からは「甲状腺の悪性腫瘍はさまざまあり、一部の進行の早いものを見逃すと大変だ」「がんが見つかったとしても経過観察という選択肢がある」などの意見が出た。

■納得の治療

祖父江氏は福島の検査について「間違っていたり方ではない。ただ本人が理解、納得した上で治療を進めていくことが大切だ」と述べ、インフォームドコンセント(十分な説明と同意)の重要性を強調した。

検査部
甲状腺
甲評価
甲評

過剰治療の指摘

がんの転移数公表求める

東京電力福島第一原発事故の放射線による



甲状腺検査に関する情報提供の在り方などを協議した部会

影響を調べている県は十日、子どもの甲状腺検査に関する評価部会を福島市で開いた。甲状腺がんの子どもが五十人に上ることに関し、出席した専門家は過剰治療ではないかと指摘、検査を進める福島医大に対し、がんの転移があった人数などのデータを出すよう求めた。

甲状腺検査は、震災

発生当時十八歳以下の約三十七万人が対象。これまでにかんと診断が確定した子どもは五十人、がんの疑いは三十九人に上る。

会合で渋谷健司東京大教授（公衆衛生学）は、検査は自覚症状のない子どもも調べているとして「過剰診断や、過剰治療の可能性は否定できない。リンパ節への転移や、声が出な

いなどの症例数を明らかにしてほしい」と求めた。

これに対し福島医大の鈴木真一教授は、一般的に小児の甲状腺がんはリンパ節への転移が多いと説明、福島のがん検査でも転移した患者がいることは認めだが、プライバシーを理由に人数の公表は拒んだ。鈴木氏は「基準に基づき治療している。手術しなくてもいいがんを取っているわけではない」と話し、過剰治療との指摘を否定した。

検査部
甲状腺
甲評価
甲評

子どもの甲状腺検査 「過剰診断」と批判

県の部会で専門家ら

東京電力福島第一原発事故の放射線被曝による、子どもの甲状腺への影響を調べる検査のあり方を議論する県の部会で、過剰診断・治療の可能性や、いまの枠組みでは被曝の影響かどうか判断できないなど、専門家から批判が相次いだ。県は、被曝影響の解明の仕方については今後、検討するという。

甲状腺がんは全般的に進行がゆっくりで、患者の生存率も高く、必ずしも早期診断早期治療で生存率が高まるわけではない。世界的に必要以上にがんを見つけて治療する「過剰診断・治療」が問題となっている

る。

しかし県は、チェルノブイリ原発事故後に子どもの甲状腺がんが多発した教訓から、事故当時18歳以下の子どもを対象に甲状腺検査を実施。これまでに50人が、がんと診断された。

この日の県部会で、渋谷健司東京大教授(公衆衛生)は、「(すでに50人ががんと診断された)状況をみると、福島も過剰診断の可能性がある」と指摘。その上で「県民に過剰診断の可能性を周知したり、治療方針を考え直したりした方がいいのではないか」とした。

これに対し、検査を実施する鈴木真一県立医大教授

(甲状腺外科)は、「学会の指針などの基準に基づいて治療しており、必要ない手術はしていない」と反論。ただし、がんの進行具合など手術の必要性の判断に必要なデータは、いずれも学術論文で発表するまで公表できないとした。

専門家の部会は、論文発表前に、データの県民への公表を求めていく。

一方、専門家からは、がんと被曝との因果関係の解明に必要な甲状腺被曝線量が不明な点についても批判が出た。県立医大では今後、線量の比較的高い浜通りと低い会津地方の比較を実施するなど検査のあり方を検討するとした。

(大岩のり)



甲状腺検査方法の妥当性について議論する部会員

甲状腺検査の評価部会

手術の理由開示を

県と医大検討へ

東京電力福島第一原発事故に伴う県民健康調査のうち、事故当時18歳以下の県民を対象にした甲状腺検査について検討する評価部会

10日、福島市で第3回会合を開いた。3月末現在で51人が甲状腺がん手術を受けている現状について、手術を行った理由に関する情報開示を求める意見が相次いだ。甲状腺検査を行って

由について、同大はこれまで個人情報への配慮を理由に公表していない。部会員からは、甲状腺がんがリンパ節に転移したケースなど緊急性があり手術に踏み切ったケースが何例あるかなど検査の妥当性を判断するため、総合的なデータの公表を求める声が続出した。公表について福島医大の鈴木真一教授は「自分の一存で決められない」とした上で「データベースも含め科学的な説明で社会的使命を果たす」と述べた。県は「全体的なデータを総合的に示せる仕組みづくりなど個人情報に配慮し、できる限り対応する」と前向きな姿勢を見せた。

18歳以下の甲状腺検査では、3月末現在で計90人ががんや「がんの疑い」と診断され、このうち良性と判断された1人を含む51人が手術を受けた。淡谷健司東大大学院医学系研究科教授は、進行が遅く気付かない人も多い甲状腺がんの特徴などを踏まえ「小さながんも感知する超音波で検査することで、がんと診断された人が増えた。解釈の一つとして過剰と指摘。また「手術をする必要があったのか、判断材料は何か」とただし、がん手術を受けた不安により、手術を受ける人が増えた可能性に触れた。鈴木教授は手術に至ったケースについて「リンパ節への転移や声が出なくなる危険性など緊急性を要する場合のみだ」と述べた。

national

Experts worry that radiation fears are leading to unnecessary surgery for children

Fukushima thyroid tests under fire

Mizuho Aoki
STAFF WRITER

More than three years after the triple core meltdown in Fukushima Prefecture devastated the lives of thousands of residents, the effect that the radiation release is having on children's thyroid glands still weighs heavily on residents' minds.

The iodine-131 released into the air by the meltdowns accumulates in the thyroid gland, increasing the risk of thyroid cancer. The gland is responsible for regulating hormone levels in the body.

Children are considered especially vulnerable. After the 1986 Chernobyl disaster, more than 6,000 children were diagnosed with thyroid cancer by 2005, according to the U.N. Scientific Committee of the Effects of Atomic Radiation.

Given the local anxiety, the Fukushima Prefectural Government in October 2011 started offering free thyroid screenings for everyone who was 18 or younger at the time of the disaster. The prefecture has 370,000 residents in that age group, and 300,000 had received voluntary checkups by the end of March.

The program may look good on paper, but it has drawn flak from medical experts who say it is far from adequate in determining a link between the cancers found and radiation exposure.

At the core of the criticism is the prefectural government's policy of not releasing data on the results of the checkups, such as what stage of cancer the examinees are in.

This lack of disclosure — based on prefectural privacy policies — has made it hard for experts to accurately judge whether the abnormally high incidence of thyroid cancer in Fukushima is being caused by the nuclear debacle or the higher screening rate.

In addition, the prefecture has no authority to follow up on children who test positive for cancer, meaning its data on the medical effects of the aftermath of the disaster will be limited.

As of March, the prefectural government found 90 children with suspected thyroid cancer after nearly 300,000 examinations. The prefecture was able to confirm that 51 of them opted to have surgery to remove part or all of their thyroid gland.

This figure is clearly high compared with a thyroid cancer registry rate of around one to nine per 1 million teens in Japan, experts say.

But because thyroid cancer often causes no symptoms and thus goes undiagnosed, experts point to the possibility that the ratio in Fukushima has turned out to be higher simply due to the widespread screening.

"The screenings may have ended up finding cancer that would have never have caused a health problem for their entire lives even if left unattended," said Kenji Shibuya, a professor and chairman of the depart-



A doctor conducts a thyroid examination on a 5-year-old girl at a clinic in a temporary housing complex in Nihonmatsu, Fukushima Prefecture, in February. REUTERS

ment of global health policy at the University of Tokyo.

The thyroid cancer rate among children near the Chernobyl plant started to rise four to five years after the catastrophe, mainly because they kept drinking highly contaminated milk and local produce, according to UNSCEAR.

But in Fukushima, several studies have confirmed that internal and external exposure levels were indeed much lower than those around the former Soviet power plant, which met a much more violent fate.

In April, UNSCEAR said that in Fukushima "the occurrence of a large number of radiation-induced thyroid cancers as were observed after Chernobyl can be discounted because doses were substantially lower."

"Given the low radiation exposure levels, it is possible that detected cancers were the kind of cancers that would never do harm. But they were found be-

'The screenings may have ended up finding cancer that would have never have caused a health problem for their entire lives even if left unattended.'

KENJI SHIBUYA OF THE UNIVERSITY OF TOKYO

cause of the screenings," said Shibuya, a member of a panel tasked with assessing the result of the thyroid examinations in Fukushima.

He added that there is also a possibility that patients underwent unnecessary surgery.

To examine the possibility of overdiagnosis — diagnosis of a malady that never causes symptoms or death — Shibuya and other medical experts have urged Fukushima Medical University, which is heading up the examination program, to disclose its findings on treated patients, such as the percentage of thyroid cancer cases that spread to the lymph nodes or elsewhere in the body.

The university refuses to dis-

close the data for privacy reasons.

The Fukushima Prefectural Government meanwhile says it doesn't have the authority to track down and gather the information from medical institutions because treatment after diagnosis is outside its jurisdiction.

Fukushima official Yukio Kakuta acknowledged that the prefecture can't track down all patients.

"Under the current system, we can't follow up on all of the patients," Kakuta said. "In addition to the issue of privacy, it's my understanding that some patients and their parents are skeptical of the prefecture-led health checkup program itself, and that some people don't trust Fukushima Medical University."

"I believe some of those people have gone to other hospitals to get their thyroid glands checked and treated," which makes it difficult for



University of Tokyo professor Kenji Shibuya is interviewed recently by The Japan Times about the task of overseeing thyroid cancer screening in Fukushima Prefecture. SATOKO KAWASAKI

mal, and start discussions on the potential effects of the radiation," he said. "But without disclosing the data, the suspicion (of overdiagnosis) will never go away."

With the spreading use of sonography, overdiagnosis of thyroid cancer has become a concern worldwide. While the number of cases is on the rise, experts say the mortality rate remains unchanged.

Papillary thyroid cancer, the type that appears most prevalent among children in Fukushima, is known for having a slow growth rate and very low risk of death, the experts say. Therefore, many hospitals in Japan nowadays tell patients that long-term observation of their condition is an option to surgery.

Iwao Sugitani, a professor and chairman of the department of endocrine surgery at Nippon Medical School Graduate School of Medicine, said about 90 percent of thyroid cancer cases in Japan involve papillary thyroid cancer. While around nine out of every 10 patients with this type of cancer face no immediate threat to their lives, experts are divided on whether to perform surgery in such cases.

According to a study conducted by the Cancer Institute Hospital in Tokyo from 1995

to 2009, a total of 283 papillary thyroid cancer patients chose not to have surgery and opted instead to be monitored on a regular basis. None died nor saw the cancer spread, according to the study.

"Early detection and early treatment is recommendable for most cancers. But I don't see much meaning in finding and conducting surgery on people with a small papillary thyroid cancer that would go undetected for their entire lifetimes" without screening, Sugitani said.

Shibuya of the University of Tokyo also questions whether the mostly benign nature of papillary thyroid cancer and the option of having no surgery are being fully explained to the children and their parents in Fukushima.

"Without such knowledge, it's natural for most parents to ask doctors to perform surgery," Shibuya said.

By going under the knife, "children will have scars on their necks, and they may suffer from the thought that they developed cancer due to radiation exposure," he said. "Some of them might have to take hormone tablets during their entire lives. (The Fukushima government) must think harder on whether it should continue the program as it is now."